

## 知的障害者の就労の実現と

### 継続に関する指導の課題

- 事業所・学校・保護者の意見の比較から -

1999年1月

日本障害者雇用促進協会  
障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

## ま え が き

障害者職業総合センターでは、平成3年の設立以来、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、我が国における職業リハビリテーション・サービス機関の中核として、職業リハビリテーションに関する調査研究をはじめとして、さまざまな業務に取り組んできています。

さて、この報告書は、当センターの研究部門が実施した「知的障害者の職業生活のための課題の構造的把握に関する研究」の結果をとりまとめたものです。

知的障害者の場合、成長期に発現した知的発達遅滞という障害特性からみて、同年齢の健常者が担うことのできる職業上の役割を同じように担うことは難しく、就労の実現並びに継続には、家族はもとより、学校関係者や事業所関係者の援助を欠くことができません。しかし、そうした援助を得たとしても、なお、知的障害者の就労の実現、継続には困難が伴うのが実状です。

このとき、援助する関係者（事業所、教員、保護者等）間の意見が一致しているのかどうかはとても重要です。といいますのは、関係者の意見が異なっている場合には、そのことが職業指導における一貫性を阻害する要因の1つと考えられるからです。また、一致しているのであれば、就労の実現や継続をめぐる困難はどのような点から生じているのかについて検討する必要があります。

本研究では、以上のような視点から、知的障害者が就労して職業生活に適應するための課題について、彼らを取りまく関係者の意見を比較検討しました。その結果、学校生活から職業生活への円滑な移行を支援するための課題について明らかにすることができたのではないかと考えています。

また、この研究を進めるに際しては、いろいろな方から多大のご協力を賜りました。特に、本研究において調査にご協力くださり、貴重なご意見をいただきました事業所・教員・保護者のみなさまに、深く感謝申し上げます。

この報告書が、たくさんの方々の関係者の方々に活用され、わが国における職業リハビリテーションをさらに前進させるための一助になれば幸いです。

1999年1月

日本障害者雇用促進協会

障害者職業総合センター

研究主幹 後藤 憲夫

執筆担当：（執筆順）

向後 礼子 障害者職業総合センター 研究員 : 概要, 序, 第 部, 第 部第 1 章,  
評価・相談研究部門 研究員 第 2 章第 1 節 ~ 第 8 節, 第 10 節

望月 葉子 障害者職業総合センター  
特性研究部門 研究員 : 第 部第 2 章第 9 節, 第 部

# 目 次

概 要 .....	1
序 研究のねらい .....	7
第 部 本調査研究で用いる課題と項目の策定 .....	9
第 1 章 先行研究で用いられた課題と項目の総括	
- 就労の実現と職場適応をめぐる - .....	9
第 1 節 『精神薄弱者の職場適応をめぐる』 .....	9
第 2 節 『精神薄弱者の職場適応とその改善・向上』 .....	11
第 3 節 『精神薄弱者の職業準備に関する調査研究』 .....	15
第 4 節 『職業評価と「障害者用就職レディネス・チェックリスト」の作成』 .....	22
第 5 節 『精神薄弱児の社会的自立に関する研究』 .....	24
第 6 節 就労と職場適応をめぐる課題の総括 .....	26
第 2 章 学校指導要領に掲げられた課題と項目の総括	
- 学校時代の教育の目標をめぐる - .....	34
第 3 章 教育の場から職業の場への円滑な移行のための課題の検討	
- 調査項目の策定をめぐる - .....	48
第 部 調査 .....	59
第 1 章 方法 .....	59
第 2 章 結果と考察 .....	63
第 1 節 結果の処理について .....	63
第 2 節 調査協力対象者の概要 .....	66
第 3 節 一般就労を実現するための課題	
(その 1 : 8 領域 96 課題の達成について) .....	69
1 知的障害者を雇用している事業所 .....	72
2 教員 .....	75
3 保護者 .....	85
4 関係者間における意見の相違 - 養護学校高等部を中心に - .....	93
第 4 節 一般就労を実現するための課題	
(その 2 : 項目を積み上げて達成する 7 課題について) .....	99
1 知的障害者を雇用している事業所の意見 .....	101



第4節 行動特性について .....	226
第5節 今後の課題	
- 未達成の課題に挑戦する知的障害者を支える視点から - .....	230
資料 .....	235
第 部：調査票の項目を策定するために参考とした先行研究における資料	
特殊教育諸学校（精神薄弱編，1992）の学習指導要領における課題	
（理科・音楽・図工・体育）	
第 部：一般就労を実現する際に期待される「指示の理解」：文章やメモで伝える	
知的障害者の就労を継続するための課題	
（養護学校高等部 / 養護学校中学部 / 中学校特殊学級教員）	
知的障害者の就労を継続するための課題	
（養護学校高等部 / 養護学校中学部 / 中学校特殊学級保護者）	
調査票 .....	253
第1回調査	
（事業所用調査票） / （学校関係者用調査票） / （保護者用調査票）	
第2回調査	
（事業所用調査票）	

## 概 要

本研究は、知的障害者が就労して職業生活に適応するための課題について、彼らを取りまく関係者(事業所・教員・保護者)間の意見を比較検討し、学校生活から職業生活への円滑な移行を支援するための課題を明らかにすることを目的としている。関係者間の意見を収集するために、質問紙調査を実施した。

報告書は、以下の3部で構成されている。

第 部では、調査項目の策定を行うために、知的障害者の一般就労を実現し、それを継続するための課題について、先行研究並びに学校教育における教育目標を概観して分類した。

第 部では、策定した項目に基づいて実施した初回調査の結果をとりまとめた。調査対象は、特殊教育諸学校教員と、学校紹介によって協力を依頼した事業所並びに卒業学年に在籍する生徒の保護者とした。なお、事業所は卒業生の就職先であるため、知的障害者雇用経験がある。

第 部では、初回調査の結果により、特に事業所の意見を明らかにすることを目的に実施した第2回調査の結果をとりまとめた。

### 【初回調査の結果について：第 部】

#### 1．一般就労を実現するための8領域(日常生活, 職業生活, 協調性, 意思の表示, 作業, 職業に関する知識・理解, 一般的知識, 特徴)96課題について(第3節)

(1) 事業所は企業規模などの属性の違いにかかわらず、一般就労を実現するための96課題の重要性に関し、比較的一致した傾向を持っていた。また、一般就労の実現に関し、重視すべき課題とその並び順が明らかとなった。

(2) 課題を重視する並び順については、概ね、事業所・教員・保護者に共通していた。しかし、各課題を重視する程度については、事業所よりも教員や保護者の方が高い傾向が見いだされた《事業所<教員・保護者》。

(3) 関係者に共通して、「日常生活」「職業生活」「協調性」「意思の表示」の4領域では、「できなくてはならない」とされた課題が多かった。これに対し、「職業に関する知識・理解」「一般的知識」の2領域に関しては、「できなくてもさしつかえない」と評価された課題が多かった。

(4) 養護学校高等部関係者は、中学部や中学校特殊学級と比較して、教員・保護者ともに、各課題を重視する傾向が強く、就労に対して高い準備性を求めている。

#### 2．一般就労を実現するための7課題(安全, 時間の理解と管理, 移動, 数の理解, 援助の程度, 言葉の学習, 金銭管理)50項目について(第4節)

- (1) 事業所は、“安全の確保(安全)”“出勤,仕事の開始・終了,昼休み等の時間については,ある程度自律的な行動が可能であること(時間の理解と管理)”“職場までは一人で来られること(移動)”等が必要であると考えていた。一方,他の4課題については,ほとんどの下位項目について「あまり必要でない」と考えていた。
- (2) 教員・保護者ともに,事業所の「必要性」の評価と相対的に一致した傾向を示していた。しかし,各項目を重視する程度については,事業所よりも教員や保護者の方が高い傾向が見いだされた《事業所<教員・保護者》。
- (3) 養護学校高等部関係者は,中学部や中学校特殊学級と比較して,教員・保護者ともに,各課題を重視する傾向が強く,就労に対して高い準備性を求めている。

### 3. 作業遂行について

(「注意の持続」「作業の持続」「指示の理解」「仕事の出来高」「不良品の発生率」:第5節)

- (1) 「注意の持続」「指示の理解」では,基本的に《事業所 教員・保護者》の傾向が認められた。しかし,「指示」には複数回やってみせることが必要であり,「注意」に関しても,毎日同じことを繰り返しながらでも作業が可能であると考える事業所がある一方で,「指示は1度」で,「1度注意したことは1ヶ月程度は持続して欲しい」と考える事業所もあるなど,事業所の意見には差がみられた。
- (2) 「仕事の出来高」に関しては,養護学校高等部関係者では,事業所の意見との間に有意差は認められなかった。しかし,養護学校中学部では《事業所>教員>保護者》,中学校特殊学級では《事業所>保護者>教員》となるなど,学校種別による差が認められた。
- (3) 「不良品の発生率」に関しては,養護学校高等部で《事業所>教員>保護者》,中学校特殊学級で《事業所>保護者>教員》となった。また,養護学校中学部では3者間の有意差は認められなかったものの,不良品の発生率を1%未満とする意見に関しては「事業所」と「教員」「保護者」との差は大きかった。
- (4) 「作業時間」に関しては,「一日の総作業時間」「連続作業時間」について,基本的に事業所の要求が最も厳しい(より長い時間を期待する)ものであった。
- (5) 作業遂行については,「仕事の出来高」「不良率」「作業時間」において,基本的に事業所の要求水準が高いことが示された。

#### 4．その他について

(「行動特性」「入職までの職業教育・訓練に関する意見」「企業が実施している配慮」：第6節)

(1) 「行動特性」では、関係者に共通して「決してあってはならない」とする意見が半数を超えたのは、「乱暴する」のみであった。ただし、「決してあってはならない」に「できればない方がよい」を加えると、他の行動特性でも、半数を超えた。

また、教員と比較すると、保護者は「決してあってはならない」よりも「できればない方がよい」を選択する傾向にあった。

(2) 「入職までの職業教育・訓練に関する意見」について、事業所では企業規模が小さいほど、入職までの職業教育・訓練に関する意見に肯定的であることが示唆されたが、他の属性（雇用比率・障害程度）による違いは見いだされなかった。一方、教員・保護者の職業教育・訓練に関する考え方は一貫しておらず、「どちらともいえない」という意見が各項目について3割～4割を占めるなど、明確な傾向は認められなかった。

(3) 「企業が実施している配慮」については、事業所で知的障害者の雇用比率が高くなるほど、雇用上の配慮をする傾向にあった。

#### 5．学校卒業後の進路希望について（保護者対象：第7節）

(1) 「就労による自立を求める」理由としては、『親の支援の限界』『能力・肯定的』『時期』『情報』などの理由が挙げられた。

(2) 「就労による自立を求めない」理由としては、『障害の程度』『能力・否定的』『労働市場の情勢』『生活の場の確保』が理由として挙げられた。

#### 6．「仕事の出来高」「不良品の発生率」に関する意見の違いに基づく検討（事業所対象：第8節）

(1) 「仕事の出来高」に関する意見の違いと「就労の実現」等の課題に関する評価との間には、関連が認められた（「出来高」に関する期待が大きいほど「就労の実現」等に関する評価も厳しい）。

(2) 「不良品の発生率」に関する意見の違いと「就労の実現」等の課題に関する評価との間には、関連は認められなかった。

## 7. 「就労の実現」と「就労の継続」に求められる各課題に関する評価の違いについて(第9節)

関係者に共通して、基本的に「継続」するために必要とされる基準は、「実現」のために必要とされる基準よりも厳しいものとなった。また、「就労の継続」についても、《事業所<教員・保護者》の傾向が認められた。

### 【第2回調査の結果について：第 部】

1. 調査は、第1回調査において、期待する「仕事の出来高」に関して「健常者の70%以上」と回答した高群と「健常者の50%未満」とした低群を対象に行った。また、調査に用いた項目は、第 部で検討した課題で「できなくてはならない」傾向の強い課題であった。

2. 未達成の課題を「いつまでに」達成することが望ましいのかについて、期待する「仕事の出来高」の高群と低群間の意見の比較をした(第2章第1節)。

- (1) 両群間で差がみられなかった項目は、比較的早い時期の達成を期待されている。
- (2) 両群の見解が異なる場合には、高群の方が低群よりも早い時期の達成を期待されている。

3. 未達成課題の達成を「誰の支援」を得て達成することが望ましいのかについて、両群間の差を検討した(第2節)

- (1) 就職後に初めて経験する場面での指導については、主として事業所の指導を期待している。
- (2) 作業に関わることは、職場以外でも経験できることであっても「事業所の指導」と回答する比率が高群で高い。

4. 採用後に未達成課題がある場合に、どのような配慮をしているのかについて、自由記述の内容に即して検討した(第3節)

- (1) 各課題に関して「問題はない」とする事業所もある一方で、「繰り返しの指導」や「配置転換」などの配慮が必要であるとする事業所もあるなど、採用した個人能力や特性による個人差の影響が大きい。
- (2) 全体としては、高群では「問題はない」とする意見が、低群では何らかの「配慮が必要」とする意見が多く見られた。また、「家族」等、事業所以外の機関との連携を求める意見も見られた。

5. 問題とされた行動特性のある知的障害者が雇用されている場合の配慮について、自由記述の内容に即して検討した(第4節)

- (1) 全体的な配慮では、担当職員を配置し、個別の特性に即した対応が行われていた。

- (2) 多くの場合、有効に使われているのが休憩時間であり、自然な声掛けを心がけているなど、指導時間や指導場面に対する配慮があげられていた。
- (3) 個別指導だけでなく、配置転換や自宅での休養などの対応がとられている場合もあげられていた。
- (4) 上記以外にも、職場に適応して問題が顕在化しなかった場合、逆に、勤務時間内の指導では対応できなくなった場合の経験もあげられていた。

6．知的障害者が雇用を継続していくために、「家族の協力」「関係行政機関の協力」「学校・施設の協力」等、職場以外で生活を支える体制の必要性が示唆された。

また、未達成課題に挑戦する知的障害者を支える関係者として、本調査で取りあげた事業所・学校・保護者の支援の範囲と限界について検討した（第5節）。知的障害者の就労を支えるうえでこれら3者にその他の機関を加えたネットワークの役割の検討については今後の課題である。

## 序 研究のねらい

知的障害者の場合、成長期に発現した知的発達遅滞という障害特性からみて、同年齢の健常者が担うことのできる職業上の役割を同じように担うことは難しい。したがって、就労の実現並びに継続には、家族はもとより、学校関係者や事業所関係者の援助を欠くことができない。しかしながら、これらの援助を得たとしても、なお、知的障害者の就労の実現、継続には困難が伴うのが実状である。

また、多くの知的障害者の場合、学校を卒業する時に入職に必要なさまざまな課題を十分に達成しているとは限らず、就労後も事業所や周囲の支援によってそれらの課題に挑戦していくことになる。知的障害者にとっては、就労してはじめて達成できる課題もあるが、その一方で、より円滑な職業生活への移行を考えると、準備しておく方が望ましい課題もあると考えられる。

しかしながら、こうした課題について、援助する関係者（事業主、教員、保護者等）間の意見は一致しているのだろうか。もし、一致していないのであれば、そのことが、職業指導における一貫性を阻害する要因の1つと考えられる。また、一致しているのであれば、就労の実現をめぐる困難はどのような点から生じているのであろうか。そして、就労の継続を困難とする要因をどのように分析すればよいのだろうか。

こうした問題意識は、「一人の知的障害児・者の成長の過程で、どのような課題が用意されているのか」を踏まえた検討が十分に行われてこなかったことによっている。確かに、「何ができれば就労できるのか」「職場に定着するためにはどのような課題があるのか」については、わが国でもさまざまな先行研究がある。そして、身辺自立の重要性や働く意欲、体力などの必要性が指摘されている。こうした指摘は職業準備性を高めるうえで重要な意味をもつ。しかし、児童期から成人期に至る成長の全体像が見えず、入職もしくは適応のために必要な課題に焦点があてられてはいても、「その課題が多くの課題の中でどのくらいの重要度を占めるのか」が十分に検討されていないために、準備期にある知的障害者にとって「学校時代の課題達成」と「課題達成後の就労可能性」との関連がきわめてわかりにくい結果となっているのではないだろうか。現実には「すべての課題を達成できない知的障害者」も多く、「就労をめざすときに優先的に挑戦すべき課題はどのように選択されるのか」に言及する必要があるにもかかわらず、こうした議論を展開できないことになっている。

知的障害児が卒業後の進路を考える年齢になるまで、学校に在籍して数多くの課題に挑戦するが、こうした課題は「職業に就いて自立する」ことを目標の1つとして実施されている教育課程に基づいている。したがって、職業準備性を高める教育の成果が一般就労に結びつかない場合、個々の生徒の課題達成の状況について検討するとともに、その生徒に用意した課題の構成についても検討が必要となる。ここに、あらためて「一人の知的障害児・者の成長の過程で、どのような課題が用意されているのか」を

問いかける意味がある。そのためには、教育の場における課題が就労の場における課題とどのように関連し、どのように関連しないのかについて検討し、関連する課題の達成についての検討を深めることが必要となる。

本研究は、以上のような視点から、知的障害者が就労して職業生活に適応するための課題を整理し、彼らを取りまく関係者の意見を比較検討したうえで、学校生活から職業生活への円滑な移行を支援するための議論を深めていく際の資料を提供することを目的とする。

本報告書は、以下の3部で構成される。

第 部では、就労の実現とその継続を支える課題・要因に関する先行研究において、就労に関連して取り上げられた課題を収集し、まず、受け入れ側である事業所の意見を中心に、課題を整理した。次に、小学部から高等部までの特殊教育諸学校における学習指導要領に掲げられた課題を整理した。こうして概観したすべての課題について、教育の場と就労の場に共通する課題を取りあげ、今回の調査に用いる課題及び項目を策定した。

第 部では、策定した課題及び項目に基づいて実施した、就労の実現並びに継続に関する初回調査の結果をとりまとめた。初回調査は、知的障害者を支援する事業所、教員、保護者の間で、課題に対する意見に違いがあるのかについて検討することを目的とした。調査対象は、特殊教育諸学校教員と、学校紹介によって協力を依頼した事業所並びに卒業学年に在籍する生徒の保護者とした。なお、事業所は卒業生の就職先であるため、知的障害者の雇用経験がある。

第 部では、初回調査の結果に基づき、就労の実現並びに継続に関して重要度が高いとされた課題を選択して実施した第2回調査の結果をとりまとめた。第2回調査は、重要度の高い課題の達成時期並びにその課題を教育訓練する担当者について、事業所の意見を明らかにすることを目的とした。調査対象は、初回調査で協力の得られた事業所の中から一定の方法で抽出した。

## 第 部 本調査研究で用いる課題と項目の策定

知的障害者の就労をめぐる課題を考えるにあたっては、入職という一時的、短期的な視点ではなく、学齢期以降成人期に至る一連の連続的、長期的な視点を重視した。このことは、一人の知的障害者の成長に即した課題達成を支援するという視点からは、きわめて妥当なものであるといえよう。彼らは、ある日突然に就労の場へと進むのではなく、事前に様々な教育の過程を経験しているのである。そして、入職後は、職場でも教育される経験を持つ。

そこで、就労や職場適応をめぐる調査研究の結果から得られた課題を整理し、特殊教育諸学校学習指導要領（精神薄弱教育編）をはじめとする教育の場における課題を検討することを通して、両者の関係を明らかにすることを試みる。また、この検討を通して、今回の調査における項目を策定する。

### 第 1 章 先行研究で用いられた課題と項目の総括

#### - 就労の実現と職場適応をめぐって -

一般就労を実現し、それを継続していくために重要とされる課題が何であるのかについては、先行研究において、様々な視点から検討が行われている。そこで、まず、それらの先行研究で挙げられた課題について概観し、どのような要因について検討されているのかを整理する。そのため、以下の各節では、それぞれの研究の目的及び結果については詳細に分析することを避け、主に各研究で用いられた「課題（もしくは調査項目）」の整理に焦点をあてることとした。

なお、諸外国にも同様の研究は多く認められるが、就労をめぐる援助の制度や仕組みが異なることを考慮し、我が国で行われた調査研究を主として、研究が実施された年代順に記述した。

#### 第 1 節 『精神薄弱者の職場適応をめぐって』

- 精神薄弱者の職域拡大に関する研究報告書 - (1981) 職研調査研究報告書 16.

1981年に発表された精神薄弱者の職場適応をめぐる研究報告書では、「職場に適応していくための個人側の要因を明らかにすること」を目的の1つとし、その検討のために、6領域40項目から構成される社会生活能力調査票を用いている（項目については表1-1-1）。なお、その6領域とは、本人の身につについている労働習慣、作業能力、移動能力、意思交換能力、社会生活参加、自己指南力である。

表 1-1-1 社会生活能力調査票の項目

本人の身についている労働習慣	意思交換能力
1 欠勤しませんか 2 仕事の能率はどうですか 3 仕事をしている時の態度 4 仕事への意欲 5 仕事の準備について 6 慎重にする態度について 7 仕事に対する持続性について 8 集中性について	1 朝夕の職場での挨拶 おはよう， さようなら，お先に etc 2 職場で呼ばれた時の返事 3 仕事の報告 4 上司の注意を受ける時の態度 5 伝言の力 6 氏名，住所，生年月日の理解力，使用力
作業能力	社会生活参加
① 数をかぞえる力 ② 加算の計算力 ③ 減算の計算力 4 長さの活用 5 重さの理解と活用 6 時間の把握 7 綴る力 8 危険物に対する注意 9 自分の仕事のやれる力 10 仕事のあとしまつのしかた (1と2と3は まとめて )	1 同僚との協調性 2 仕事への責任感 3 職場での規律の守り方 4 物を大切に扱うか 5 電話の利用 6 礼儀(言葉使い，態度)
移動能力	自己指南力
① 会社での時間の守り方 ② 工場内での仕事に必要な移動力 ③ 工場周辺での外用(移動能力として) 4 乗物を使つての外用 (2と3はまとめて )	1 会社で仕事をするという事 自分の生活との関連性の理解 2 物事に対する判断力 3 健康管理について 4 行動性について 5 自己統制力について 6 将来の自分の生活に対する考え

(注1) 項目，記述内容は原版のままである

(注2) 印は，報告書において最終的にまとめられた 25 項目を示す。

しかしながら，調査の実施にあたっては，調査票のうち，『職場の指導者が判断しにくい項目等』を削除した 28 項目（その後の検討で 25 項目）にまとめたものを使用している（表 1-1-1， 印）。

これらの項目について，就労している 195 名について検討した結果，『社会生活能力のすべてにわたる発達が十分でなくとも，就労が可能』であり，職場適応の要件としては，『休まず遅れず，与えられた仕事だけはきちんとこなす計算できる労働力となれること（社会性の発達）が何よりも重要である』という結論に達している。

最終的に得られた 5 領域，働くことへの理解，労働習慣，社会性，安全性，作業能力，に含まれる具体的な項目は表 1-1-2 の通りであった。

表 1-1-2 職場に適応していくための個人側の要因

社会性	作業能力	労働習慣	働くことへの理解
注意を受ける態度 返事 協調性 挨拶	持続性 数の処理 仕事の報告 作業の後始末 集中力	出勤率 職場内外の移動 時間を守る 時間の把握 規則を守る	物を大切に扱う 働くことへの理解 作業への意欲 将来の生活設計 作業をする態度 作業の準備 責任感
安全性	作業の能率		
危険に対する態度 健康管理	伝言の力		

## 第 2 節 『精神薄弱者の職場適応とその改善・向上』

### 1. 精神薄弱者の職場適応とその改善・向上

(以下、同様のタイトルの調査研究 と区別するために、調査研究 として記述する)

1984 身体障害者雇用促進協会研究調査報告書 - 3 通刊第 86 号

「精神薄弱者の職場適応とその改善・向上」の同一のテーマで報告された 2 本の調査研究報告書の目的は、調査研究 においては「知的障害者を雇用している事業所が、その能力・特性をどのように評価しているかを知ること」であり、「職業的成功を予測させる要因がなにか」を明確にすることであった。したがって、項目は、以下の 8 つの「基本的な能力(スキル)」と表 1-1-3 に見られるような「職場適応的な側面」について尋ねるものに大別された。

「基本的な能力」とは、自分の名前が書けるか、簡単な数が数えられるか、簡単な文の読み書きができるか、道具などの名前が覚えられるか、言葉で意思を伝達できるか、時間を告げることができるか、電話がかけられるか、金銭の取り扱いができるか、であった。

回答形式は、「基本的な能力」については「できる・できない」の 2 肢選択、「職場適応的な側面」について検討するために作成された職場適応評価尺度については、「“ その通り ” “ 少し違う ” “ かなり違う ” “ 全く違う ”」の 4 肢選択であった。

なお、実際の調査で用いられている職場適応評価尺度は、「作業適応評価尺度 (Work Adjustment Rating Scale, WARS)」、「作業適応評価尺度 (Vocational Adjustment Rating Scale, VARS)」、「職場生活能力検査表」の 3 つの尺度を参考に独自に作成されている。

表 1-1-3 職場適応評定尺度（精神薄弱者用）：9 カテゴリー 60 項目

仕事の成績	作業の態度
仕事が速く、十分な量をこなす 仕事が正確でいねいである 指示した通りの仕事ができる 仕事に早く慣れる 仕事が変わっても、まごつかない 自分で工夫して仕事ができる 仕事の流れにのれる かなり難しい仕事でもこなせる 一度習った仕事はよく覚えている できる仕事の種類が割合に多い	自発的、意欲的に取り組む しんぼう強く、飽きない方である 責任感があり、仕事をまかせられる 疲れを訴えることなく、ねばりがある 気に入らない仕事にも、よく耐える 急ぎの仕事にはそれなりに対処する 真剣に仕事に取り組む 仕事に選り好みが少ない 仕事中は精神的に安定している 職場環境の変化にもよく適応できる
スーパービジョン	チームワーク
よく指示に従い、手がかからない 自分の考えと違って、指示を受け入れる 常時監督しなくても、与えられた仕事はやっていける 簡単なことはすぐに理解し、確実に実行できる 自分のミスは責任をもってなおそうとする	他の人々と、仲よく協力し合う 他人の気持ちを汲んで、自発的に対処する 対人関係で、よく自分の行動をコントロールする 他人の仕事でも、必要な時にはよく手伝う 上司、同僚から信頼されている
コミュニケーション	職場環境
あいさつ、応答などが普通にできる わからないことは、素直に質問する 自分の立場をわきまえた話し方ができる 感情に走らず、冷静に話しができる 言葉で表現しなくても、こちらの意思を察知できる	職場の士気(やる気)を高めるのにプラスする 仕事の整理・整頓ができる 道具・設備などの使用が、かなりよくできる 職場の安全に対する配慮ができる 休憩時間などでは、周囲の人々と楽しく交流できる
身辺処理	一般的勤務状態
髪の手入れ、ひげそりなどが行き届いている 衣服をきちんと身につけている 食事のマナーや動作ができていいる お手洗の使用などに問題はない 人に言われなくても、身辺を清潔にできる	理由のはっきりしない遅刻や欠勤がない 時間をよく守りけじめのある行動をする 職場のきまりをよく守ろうとする 職場の同僚や異性との間にいざこざを起こさない 賃金や待遇に特に不満を訴えない
行動特性	
明朗でいつも快活である 積極的・能動的で、自発性に富む 落ち着きがあり、情緒的に安定している 目標をもって、一貫した行動がとれる 反抗、言い逃れなどが少ない 多動、おしゃべりの傾向がない 基本的な事柄の判断が身についている わけのわからない要求を持ち出すことはない 他人の言いなりになるようなことはない 自分の能力や特徴を理解している	

印は、職場適応について良好な群と不良な群に分けた場合に、弁別感度の高かった下位項目

調査の結果の主な点は、「基本的な能力」に関しては、十分とはいえなくとも就労の維持に、それ自体が『決定的な支障になるとはいえない』こと、9 カテゴリー中「仕事の成績」については、何

らかの「問題がある（回答では，“少し違う”，“かなり違う”，“全く違う”）」と指摘された者が一番多かった（約8割）のに対し、「一般的勤務状態」「身辺処理」については、比較的少なかった（それぞれ約4割，約5割）こと，適応について良好な群と不良な群に分けた場合，弁別感度の高い下位項目として14項目（表1-1-3の印）が挙げられたこと，の3点であった。

これらの結果をもとに，報告書では，（イ）「基本的な能力」の有無は，必ずしも職場適応の適否を予測しないこと，（ロ）「一般的な勤務状態」や「身辺処理」の領域に関しては，『これらの領域に問題があると就労そのものが危うくなる』可能性があること（結果より「問題なし（回答では，“その通り”）」という回答が多かったこと，結果より適応の良好群，不良群の群間で有意な差が見られなかったこと），（ハ）チェックされた14項目は，『本人側の職業的成功を予測できる要因の一部と考えられること（結果より）』の3点が考察された。

特に，考察の（ロ）に挙げられた「一般的な勤務状態」や「身辺処理」については，就労時にすでにある程度まで獲得されていることが求められるという指摘に注目したい。つまり，これらの領域に含まれる課題については，就労の場以前つまり，学校生活及び家庭生活の中で獲得されることが望まれるという指摘に他ならないからである。

## 2. 精神薄弱者の職場適応とその改善・向上（ ）

1985 身体障害者雇用促進協会研究調査報告書 - 2 通刊第92号

「精神薄弱者の職場適応とその改善・向上」のテーマで報告された研究結果を受けて，その続編となる調査研究における目的は，1つは調査研究と同様，「知的障害者を雇用している事業所が，その能力・特性をどのように評価しているかを知ること」であり，もう1つは，「個々の対象について，職場適応の改善を図るために，どのような配慮または指導方法を採用しているか」を明確にすることで，「最終的には，雇用管理の改善・向上の方策を集約する」ことにあった。したがって，調査用紙は，個人の属性等に関する資料，調査研究で用いられた職場適応評定尺度，職場適応のための配慮及び指導法に関する項目（表1-1-4），「精神薄弱者」雇用に関する企業の方針，の4つから構成されている。なお，調査対象者となったのは，採用後6ヶ月以上を経過している310名であった。

### (1) 職場適応評定尺度に関して

調査の結果は，調査研究の結果と同様に「身辺処理」と「一般的勤務状態」の2領域における評価が高く，これらの2カテゴリーに含まれる項目を『職場適応の必須条件』として挙げている。また，「基本的な能力（調査研究で挙げられた能力と同様）」と職場適応尺度との関連として，「一般的勤務状態」以外のすべてのカテゴリーにおいて，「基本的な能力」の確立群は未確立群よりも高い得点を示したことを指摘している。しかしながら，その一方で，『「基本的な能力」そのものよりも，ア・

職場で、本人がどのように適応行動をとれるか、イ・雇用側が作業の遂行と個人生活の安定に、どのような配慮がなされているか、の2つの要因の関数関係が、職場適応の良否を決める答えになると考えられる。』と指摘するなど、「基本的な能力」と職場適応に関して、明確な関係が述べられているわけではない。このことは、「基本的な能力」に関して、「確立されていることが望ましいが、確立されていないことは必ずしも職場適応の困難を予測しない」という調査研究の考えを支持するものと理解できる。

また、この調査では、職場適応に影響を与える要因として、「基本的な能力」以外に 事業所要因（従業員数／業種／「精神薄弱者」数）、個人要因（年齢／性別／就労年数／障害の程度／健康状態／専任指導員）、保護者要因（溺愛／いいなり／過保護／無関心／親の協力）の各要因について検討している。その結果、

- (a) 道具の名前が覚えられること
- (b) 言葉による意思の伝達ができること
- (c) 健康状態に問題がないこと
- (d) 保護者が協力的であること

の4要因が職場適応に重要な影響を持つことが指摘された。中でも、(c)の健康状態については(d)の保護者の協力なしには、維持することが困難な知的障害者も多いことから、これらの結果は、職場適応に関して保護者の果たす役割の大きさを指摘しているといえよう。もちろん、いつの時点でも、またどんなことであっても保護者が協力できるというわけではない。したがって、保護者に代わるサポートの体制についてどのように考えていくかが今後の課題となることは明らかである。この点については、第 部第 2 章第 9 節で検討することとして、ここでは、知的障害者の就労に関する問題を考慮する際に保護者がどのような意見を有しているかを検討することの重要性が改めて指摘されたことを挙げておくにとどめる。

## (2) 職場適応のための配慮及び指導法に関する項目

「個々の対象について、職場適応の改善を図るために、どのような配慮または指導方法を採用しているか」について検討するために用いられた項目は以下の20項目であった（表 1-1-4）。

表 1-1-4 職場適応の改善を図るための配慮及び指導に関する項目

・ 一般従業員の合意，指導体制	安全
・ 導入訓練の実施	・ 労働習慣の確立，強化
・ 能力評価の手順	・ 数，文字理解
・ I Q 等資料の活用	・ 耐久力，持続力の強化
・ 作業工程の改変	・ 働くことの意義
上司，同僚のカバー	・ 人間関係
根気ある指導	・ 金銭理解
指導体制	・ 異性関係
指導のアクセント	・ 健康管理
ミス，失敗時の指導	家族との連携

印は、50%を超える事業所が配慮していると回答した項目

20 項目中、多くの事業所で配慮がなされていた(非常に配慮した/ある程度配慮した、をあわせて 50% を超えた)のは、主として作業遂行に関するものであった。具体的には、「技能を向上させるために根気よく教える」「職場の安全について配慮する」「上司・同僚がカバーする」「指導体制として、作業能率を高めるためにマンツーマンで徹底的に指導する」「激励・賞賛・叱責などアクセントをつけた指導方法を採用する」「作業ミスや失敗などの際、以後それを防ぐために徹底的に指導する」の 6 項目であった。また、同様に多くの事業所が配慮したと回答した項目は「家族との連携を密にする」であった。

ただし、調査と並行して行った具体例についての分析からは、『件数としては必ずしも目立たないが、生活管理などの多方面にわたり、極めてきめの細かい配慮がなされている』ことが指摘されている。

### 第 3 節 『精神薄弱者の職業準備に関する調査研究』

#### 1. 精神薄弱者の職業準備に関する調査研究

(以下、同様のタイトルの調査研究、と区別するために、調査研究として記述する)

1987 身体障害者雇用促進協会研究調査報告書 - 9 通刊第 105 号

調査研究の目的は、「障害者が職場において安定した職業生活を送るために、どのような職業についての準備活動が関係者によって行われる必要があるのかを明らかにすること」にあった。これは、以下に続く、精神薄弱者の職業準備に関する調査研究・に共通する目的である。また、研究は「教育から職業生活への移行」を意識したものであり、教育訓練施設(学校・職業訓練関係施設・通勤寮等)及び家庭も検討の対象としている。

調査研究では、一連の研究の初年度ということもあり、(1)「職業準備」に関する意義や概念についてまとめると共に、(2) 2 養護学校・2 訓練施設・1 通勤寮・2 相談判定機関の教職員及びカウンセラーを対象に、ヒアリングとアンケート調査を実施している。なお、アンケート調査に関しては、教職員や施設職員だけでなく、「精神薄弱者」本人やその保護者も対象としている。

##### (1) 「職業準備」について

ここでは、「職業準備」を理論や先行研究及び経験的知識から『とりあえずの仮説』という形で 3 つの形態に分類している。

基礎的職業準備

基本的な生活能力・習慣・態度の形成(身辺処理、生活時間管理など)

社会的な生活能力・習慣・態度の形成(挨拶、通信、約束の遵守など)

一般的職業準備

職業意識の形成(職業に対する興味、価値観など)

- 職業態度の形成（仕事に対する意欲，安全に対する対応など）
- 労働習慣の形成（遅刻，早退，無断欠勤をしないこと，仕事の準備・後始末ができるなど）
- 職業知識等の取得（職業内容，職業の選択，労働市場の状況等に関する知識など）
- 具体的職業準備
- 具体的職業能力の取得（特定技術，技能，作業能力，資格などの取得）
- 職業選択（進路相談，職業相談，職業適性検査，職業実習等の実施，求職，就職直前の準備など）

このうち， の基礎的職業準備に関しては『健常者については家庭教育・学校教育・社会教育等によってかなりの能力付与が行われている。しかし精神薄弱者については，精神薄弱者自身や環境等との関係から能力取得が一般に不十分であるため，基礎的職業準備が特に必要である』など，その重要性が強調されている。 に含まれる項目については，他の先行研究（第 1，2，4，5 節）でも同様に重要視する意見が多く，これらの課題が学校教育のカリキュラムの中でどのように扱われているのかについての検討が必要であろう。

## (2) 職員対象調査について

調査は，養護学校・訓練施設・通勤寮・相談判定機関の教職員及びカウンセラー，を対象としたものである（なお，教職員及びカウンセラーのみを対象とした調査項目には，「就職先開拓の活動等」に関する項目も含まれているが，詳細については，当該報告書を参照されたい）。ここでは，以下の 2 点を中心に知的障害者本人の課題に焦点を当てた項目について結果を検討する。

「精神薄弱者」が安定した職業生活を送るために身につけて欲しい課題（表 1-1-5）

「精神薄弱者」が一般雇用につけるかどうかを判断する際に重要視する項目（表 1-1-6）

表 1-1-5 「精神薄弱者」が安定した職業生活を送るために身につけて欲しい課題

身のまわりのことができるようになること	どのような仕事にむいているのかを知ること
からだをじょうぶにすること	会社のしくみや商売のしかたを学ぶこと
勉強（国語や算数）ができるようになること	仕事の技術を向上させること
友達をたくさんつくること	仕事が早くやれるようになること
どこへでもひとりで行けるようになること	仕事に役にたつ資格をとること
仕事をする時間に生活時間をあわせること	できるだけ早く仕事をさがすこと
仕事がどのくらいできるのかを知ること	日常生活の習慣を身につけること

（課題は，原文のまま引用）

「精神薄弱者」が安定した職業生活を送るための必要条件に関して，調査対象者の過半数が共通して重要と回答した項目は， 日常生活の習慣を身につけること， からだをじょうぶにすること，

身のまわりのことができるようになること， 仕事をする時間に生活時間をあわせること，の4項目であった。これらの4項目は，実際の仕事の内容と直接的に関わるものではないが，仕事に就く前に準備ができ，しかもどのような仕事に就いたとしても重要となる基本的な項目といえる（表 1-1-5）。

表 1-1-6 「精神薄弱者」が一般雇用につけるかどうかを判断する際に重要視する項目

基礎体力・健康	作業の能力（速さ・正確さ等）
身辺処理	対人関係・社会性
移動能力（行きたいところまで行ける）	重複障害の有無
言語能力（言いたいことが上手にいえる）	学歴（普通学級，特殊学級，養護学校等の別）
数量処理能力・金銭管理	家庭環境（協力体制の有無等）
知能指数	親の希望を尊重する
時間管理（遅刻・無断欠席の有無）	本人の希望を尊重する
作業に対する意欲・態度	

（項目は，原文のまま引用）

「精神薄弱者」が一般雇用につけるかどうかの判断基準として関係者が重視する項目は， 作業に対する意欲・態度（80.0%）， 基礎体力・健康（58.9%）， 対人関係・社会性（58.9%）の3項目であった。これに対し， 数量処理能力・金銭管理， 重複障害の有無， 学歴（普通学級，特殊学級，養護学校等の別）， 親の希望を尊重する，の4項目については，ほとんど重要視されていないという結果となった（表 1-1-6）。

### （3）保護者及び本人対象調査について

この調査では，表 1-1-5 の同一項目について，保護者や本人に「施設や学校でどんなことをしたり，できたりするようになりたいか（期待するか）」を複数回答を可として尋ねている。

その結果，50.0%を超える回答率を示した項目は，保護者では「日常生活の習慣を身につけること（68.6%）」「友達をたくさんつくること（68.6%）」「どのような仕事にむいているのかを知ること（60.0%）」「身のまわりのことができるようになること（60.0%）」「からだをじょうぶにすること（57.1%）」「仕事がはやくやれるようになること（57.1%）」「どこへでもひとりで行けるようになること（51.4%）」の7項目であった。また，本人では，「友達をたくさんつくること（60.6%）」「仕事の技術を向上させること（60.6%）」「仕事がはやくやれるようになること（59.1%）」の3項目であった。

両者に対する質問の仕方が一部異なるため，（2）と（3）の結果についての直接的な比較は，妥当ではないと考えられる。しかし，ここでは，（3）において保護者や本人から挙げられた項目が，（2）で教育関係者らによって重要と考えられた項目と一部重なるものの，（2）では挙げられなかった「適性」や「仕事の能率」等の仕事の内容と直接関わる項目が含まれているという点に注目しておきたい。

## 2. 精神薄弱者の職業準備に関する調査研究

1987 身体障害者雇用促進協会研究調査報告書 - 9 通刊第 114 号

調査研究 は、調査研究 を受けて、主に事業所を対象に、ヒアリング及びアンケート調査を通して、「精神薄弱者」を受け入れる事業所の実状」や「就労しようとする「精神薄弱者」に望むこと」等について検討している。また、アンケート調査に関しては、「精神薄弱者」の保護者も対象としている。

### (1) 事業所対象のアンケート調査

調査は、東京・神奈川・埼玉・愛知・大阪の 5 都府県から抽出した事業所で、原則として、「精神薄弱者」の雇用率が 1%以上、かつ、「精神薄弱者」が 2 人以上の事業所 248 社（有効回答率 32.6%）を対象に行われた。

このアンケートで用いられた項目（表 1-1-7）は、調査研究 で用いた項目（表 1-1-5 及び表 1-1-6）のうち、重要と評価された項目を組み合わせで構成されたと考えられるが、これらの項目を利用した明確な根拠は述べられていない。

なお、調査では、これら 20 項目のうち、「精神薄弱者」が安定した職業生活を送るために身につけておくことが望ましい課題（表 1-1-7）、上位 5 項目までに をつけるように求めている。

表 1-1-7 「精神薄弱者」が安定した職業生活を送るために身につけておくのが望ましい課題

身辺処理ができること	時間管理ができること
目的地へ移動できること	情緒の安定を保てること
他人と意思交換ができること	仕事に耐えられる体力があること
文字の読み書き、計算などができること	仕事をする持続力があること
集団生活に参加できること	仕事への集中力があること
他人と協調できること	仕事を確実にこなせること
社会の規則や常識を守れること	仕事をする際安全に配慮できること
金銭感覚があること	仕事に役立つ資格を持っていること
余暇をうまく利用できること	仕事への意欲を持っていること
健康管理ができること	どういう仕事に向いているのかを知っていること

: 35%以上が「身につけておくことが望ましい」と回答した項目 (項目は、原文のまま引用)

: 20%以下の項目 ( ・ いずれも複数回答)

結果は、表 1-1-7 に見られるように、『身辺処理や持続力、耐性、集団生活への適応性が重視された』ものとなった。また、企業規模との関連を検討し、基本的には、重要視する項目に大きな差は認められないものの、いくつかの点で違いが認められたことが報告された。例えば、『大企業ほど、他人と協調できること、 仕事をする際安全に配慮できること、 時間管理ができること、 に関して

要求水準が高いのに対し、より規模の小さい企業では、 身辺処理ができること、 目的地へ移動できること、 情緒の安定を保てること、 仕事に耐えられる体力があること、 に関して要求水準が高い』、などである。

また、「身辺処理」、「社会性」に関しては、さらに表 1-1-8 に見られる下位項目を用意し、上位 3 項目までに をつけるように求めている。

表 1-1-8 身辺処理及び社会性に関する下位項目

身辺処理	社会性
食事	乱暴な行動はとらない
排泄	自分から挨拶をする
洗面（洗顔や歯磨き）	リーダーの指示に従える
衣服の着脱	同僚の中に自分から入ることができる
寝具（布団の上げおろし等）	きまった友人がいる
入浴	人の前で話ができる
整理整頓（自分の持ちものを片づけられる）	多少いやなことがあってもがまんできる
清潔（下着等汚れたら取り替える）	集団生活に参加できる
みだしなみ（頭髪を整えたり、衣服がきちんと着られる）	来客と簡単な対応ができる
その他（自由記述）	ルールや習慣を守ることができる

（項目は、原文のまま引用）

その結果、「身辺処理」では、 整理整頓、 排泄、 みだしなみ、 食事、 清潔、 の順で重視されていた。他の項目は、 衣服の着脱を除き、職場での行動に含まれないため、あまり重視されなかったと考えられる。

「社会性」では、 ルールや習慣を守ることができる、 リーダーの指示に従える、 自分から挨拶をする、 多少いやなことがあってもがまんできる、 の順で重視されていた。これに対し、 来客と簡単な対応ができる、 きまった友人がいる、 人の前で話ができる、 は重視されなかった。

ここで、重視された項目と重視されなかった項目を比較すると、重視された項目は、「自分からの挨拶」を除くと、受け身的な行動が多いのに対し、重視されなかった項目には自発的な行動や判断が要求される行動が多いと考えられる。

また、精神薄弱者の職業準備に関する調査研究 では、表 1-1-9 に示した 20 項目から構成される「一般的技能（個人的・社会的技能要件）」がどの程度要求されているかについて「ほとんど必要がない」から「ある程度以上、必要」の 3 段階で検討された。

なお、『 ～ までを社会的分野、 ～ までを時間に関係した分野、 ～ までを作業に関係した分野、 ～ までを耐性に関連した分野』としている。また、調査では、対象を 14 の業種に分けて業種毎の検討も行っている。そこで、この業種毎の検討において「ある程度以上、必要」と 60% 以上の事業所が回答した項目の比較をした（60%以上の回答が得られた業種が 7～10 業種を、11～

12 業種を ，13～14 業種を )。その結果，より多くの業種で共通して重要とされた技能は，「出勤，退出あるいは休憩などの時間を守る( )」こと，「作業能率が一定で，作業量が予測できる( ・ )」こと，「指示に従う( )」こと，「作業に耐える体力と精神力がある( ・ )」ことであった。また，「みだしなみ」や「安全に関すること」などの項目も比較的共通して「必要」と考えられているといえるのではないだろうか。

表 1-1-9 個人的・社会的技能要件

意思の伝達，仕事についての報告をする 上司，同僚に質問や援助を求める 上司，同僚の監督，指導なしで働く 他の仕事との調整，または，他の人と協力する 上司，同僚とつきあう（社交性） 身体，服装の清潔さ	規定された手順，あるいは，時間内で作業する 器用さが要求される 二者択一のような決断を要求される 命令，あるいは，指示に従う 作業手順，危険標識，名称などを記憶する 危険を伴う作業には，注意を払う
出勤，退出，あるいは休憩などの時間を守る 常に，一定の速さで作業する 複数の作業をほぼ同時に行う 予定通りに作業を進める	周囲に気を取られず仕事をする 反復作業に耐える 力がある 8 時間勤務に耐えるスタミナがある

(項目は，原文のまま引用)

印は，「ある程度以上，必要」に 60%以上の回答が得られた業種が 13～14 業種の項目

印は， " 11～12 業種の項目

印は， " 7～10 業種の項目

## (2) 保護者対象のアンケート調査

また，調査研究 では回答のあった事業所に雇用されている「精神薄弱者」の保護者を対象に同様の項目を用いて「家庭」の意見を尋ねている（有効回答数，53 名）。この調査では，有効回答数が少ないことと，特定の事業所に雇用されている家庭の回答が多かったことから，保護者全体の意見を代表しているとは言い難い。このため，ここでは，両者に共通点，相違点が見られた項目について見ていくこととする。

表 1-1-7 に示した 20 項目（安定した職業生活のために身につけておくこと）のうち，事業所，保護者で共通して高かった項目は，「仕事に耐えられる体力があること」「身辺処理ができること」であった。また，事業所の回答傾向が高かった課題は，「仕事をする持続力があること」「他人と協調できること」の 2 項目，保護者の回答傾向が高かった課題は，「他人と意志交換ができること」「文字の読み書き，計算などができること」の 2 項目であった。

次に，表 1-1-8 に示した「身辺処理」に関する 9 項目についての事業所と保護者の回答傾向を比較する。事業所では，「整理整頓（55.2%）」「排泄（54.4%）」「身だしなみ（47.2%）」の順で高く，保護者では「食事（54.7%）」「排泄（52.8%）」「整理整頓（49.9%）」順で高いという結果が示唆された。また，回答傾向に 10%以上の差がある項目を見ていくと，事業所の回答傾向が高い課題は「清潔（事：42.7% > 保：26.4%）」，保護者が高い課題は「衣服の着脱（事：28.2% < 保：39.6%）」で

あった。

また、表 1-1-9 に示した「社会性」に関する 10 項目についての事業所と保護者の回答傾向を比較する。事業所では、「ルールや習慣を守ることができる (59.3%)」「リーダーの指示に従える (52.8%)」「自分からあいさつする (50.4%)」の順で高く、保護者では「自分からあいさつする (52.8%)」「多少いやなことがあってもがまんできる (47.2%)」「ルールや習慣を守ることができる (37.7%)」の順で高いという結果が得られた。また、回答傾向に 10%以上の差がある項目を見ていくと、事業所の回答傾向が高い課題は「リーダーの指示に従える (事: 52.8% > 保: 34.0%)」及び「ルールや習慣を守ることができる (事: 59.3% > 保: 37.7%)」の 2 項目、保護者が高い課題は「多少いやなことがあってもがまんできる (事: 36.3% < 保: 47.2%)」及び「人前で話ができる (事: 8.9% < 保: 18.9%)」の 2 項目であった。この結果から、報告書では『事業所では組織内の秩序に適応できるかどうか問われているのに対し』、『保護者では、より一般的な人間関係のあり方に関心が強いように思われる』ことが示唆された。

このように、事業所と保護者の回答傾向は、比較的類似してはいるものの、詳細に検討した場合には、差異が認められる。『精神薄弱者の職業準備に関する調査研究』では、教員及び施設職員等との比較はないが、知的障害者をめぐる関係者の意見という意味では、彼らとの間にも差異が認められる可能性があり、検討の必要性があるのではないかと考える。

### 3. 精神薄弱者の職業準備に関する調査研究

1987 身体障害者雇用促進協会研究調査報告書 - 9 通刊第 124 号

調査研究 では、調査研究 の結果をまとめ、「精神薄弱者」本人、家族、施設等職員、事業所の 4 者の意見の比較をしている。比較は、『職業準備の目標の認知状況 (「精神薄弱者」の就労の促進、継続と安定した職業生活の確保に必要な要件に関する意見)』と『「精神薄弱者」の現有能力の認知状況』の 2 点から行われたが、ここでは、本報告書の目的にあわせて、『職業準備の目標の認知状況』についてのみ、触れることとする。

『職業準備の目標の認知状況』に関する各関係者間の意見は、施設職員等と事業所は、共に特定の職務に結びついた具体的な技能ではなく、身辺処理等の基礎的な準備に関する要望が強いなど、比較的類似した意見を有していること、保護者は、施設職員等や事業所よりは低いものの、基礎的な準備に関する要望を有していること、しかし、職業への意欲や労働態度などへの要望が高いなど、異なった意見も有すること、「精神薄弱者」本人は、基礎的な準備よりは、特定の職業的技能、知識の習得などに関することを重視するなど、施設職員等、事業所、保護者のいずれとも異なった意見を有すること、が示唆された。

また、調査研究では、調査研究の結果をまとめるとともに、新たに『具体的な「職業準備プログラム」を提示』することを目的としている。また、「職業準備プログラム」については、より具体的に『学校教育初期、学校教育終了後の時期、職業生活初期の3段階に分けて示し、実践の場での参考に供しうる』としている。しかしながら、ここでは、具体的なプログラムの内容については触れない。ここでは、の段階における実践例として「東京都心身障害者福祉センター精神薄弱科の個別福祉プログラム」にみられる評価項目の中から、「作業場面に基づく評価基準」を紹介する（表1-1-10）。

表 1-1-10 作業場面に基づく評価基準

評価項目		評価項目	
作業能力	指示理解	作業態度	陰日向なく作業できるか (指導者がいるいないに関わらず)
	能率 (作業スピード, 一般と比較して)		意欲的に作業するか
	正確性		作業にむらはないか (選り好み, 不得手な仕事もやるか)
	習熟 (のみこみ, 上達はよいか)		作業の持続性
	修正能力 (失敗をくりかえさないか)		集中力
	判別能力 (部品の区別, 不良品の見分け)		注意を聞く態度
	理解の持続性 (学んだ事を覚えているか)		指示を聞く態度
	巧緻性 (作業を器用にこなすか)		質問・報告
身体的特徴	作業耐久性 (何時間の労働に耐えるか)	度	仕事の準備・後片付け
	健康状態		安全への理解

#### 第4節 『職業評価と「障害者用就職レディネス・チェックリスト」の作成』

1989 職研調査研究報告書 87 雇用促進事業団雇用職業総合研究所

障害者用就職レディネス・チェックリスト（以下、チェックリスト）は、『適切な職業相談や職業指導を進めるための手がかりを提供すること』を目的として作成された。また、チェックリストは、知的障害者のみを対象としておらず、同一の項目に対して得られた回答の重み付けを変化させることで、視覚障害者/聴覚障害者/上・下肢切断者/運動機能障害者/「精神薄弱者」/一般、のすべての対象者に利用可能であることを目指したものである（チェックリストで評価対象とされる領域と項目名については表1-1-11を参照）。

表 1-1-11 障害者用就職レディネス・チェックリスト における 8 領域 38 項目

就業への意欲	職業生活の維持
働くことへの関心 本人の希望する進路 職業情報の獲得 経済生活の見通し	身辺の自立 症状の変化 医療処置 医療の自己管理 健康の自己管理 体力 勤務体制 本人を取り巻く環境
手の機能	姿勢や持久力
手指・手腕の動作 手指・手腕の運動速度 腕の動作 腕の運動速度 上肢機能の巧み性 上肢の筋力	姿勢の変化 持ち上げる力 座位作業の持続 立ち作業の持続
情報の受容と伝達	理解と学習能力
視覚機能 視覚弁別機能 聴覚機能 コミュニケーションの方法 書字表現の方法	言語的理解力 話す能力 読解力 書く能力 数的処理能力
社会生活や課題の遂行	移動
「社会生活の遂行」は、さらに 14 の下位課題から構成されている  「課題の遂行」は、さらに 14 の下位課題から構成されている	外出 交通機関の利用 平地の移動 階段昇降 歩行技術（視覚障害を対象とする）

なお、チェックリスト作成にあたっては、職業リハビリテーションと特殊教育の各分野からは、職務や作業特性の把握、人事考課、社会的自立、職能評価・判定、職場適応、等に関する評価指標を、また、リハビリテーション医学の分野からは、日常生活動作、上下肢機能の把握、体力や疲労の把握、言語機能やコミュニケーション能力の把握、等に関する評価指標が収集され、項目策定の基礎資料として用いられた。策定のために用いられた資料は多いが、そのうちのいくつかについては、巻末に参考資料の一部として載せた（障害者職業センターの社会生活能力調査票（甲）等）。

なお、「精神薄弱者」を対象にチェックリストを実施した結果からは、「就職群と非就職群」において「就業への意欲」「社会生活や課題の遂行」「理解と学習能力」「移動」「情報の受容と伝達」「職業生活の維持」「手の機能」の各領域に含まれる以下の 11 項目に関して統計的に有意な差が認められたことが報告されている。

「就業への意欲」	働くことへの関心 / 本人の希望する進路 / 職業情報の獲得 / 経済生活の見通し
「社会生活や課題の遂行」	社会生活の遂行 / 課題の遂行
「理解と学習能力」	書く能力 / 数的処理能力
「移動」	外出
「情報の受容と伝達」	コミュニケーションの方法
「職業生活の維持」	本人を取り巻く状況

## 第5節 『精神薄弱児の社会的自立に関する研究』

- 就労を促進するための学校教育の役割 - (1991) 日本船舶振興会補助金事業研究成果報告書

『精神薄弱児の社会的自立に関する研究』報告書は、精神遅滞を持つ子どもたちの社会的自立、とりわけ職業を通じての社会的自立にとって重要な事柄を、日々指導にあたっている精神薄弱養護学校教員への意識調査から探るものであり、学校から職業への移行という流れを意識したものである。

具体的な調査項目は、次の2つの視点から構成されている。1つは「『作業能力』『作業態度』『対人的社会的能力』『個人的社会的能力』のどれが社会生活上大切かを一対比較法により求めるものであり、4つの能力または態度の中から、より直接的に重要と思われるものを探ろう」とする目的で構成されたものである。もう1つは、「一般就労を目指している児童生徒個人について、将来の社会生活を送る場合に、社会適応上の問題や職場適応上の問題をどの程度心配しているか、を5段階評定するように求めた」項目から構成されている。

なお、調査対象者は、全国精神薄弱養護学校から任意に抽出した200校であった（抽出にあたっては、小学部から高等部までを備えたいわゆる“総合”養護学校であること、すべての都道府県を調査対象に含むことを前提とし、都道府県別の学校数及び設置者別（国立、都道府県立、私立）の学校数と対象校数をできるだけ比例させることを原則としている）。

### (1) 社会生活上大切な領域（作業能力・作業態度・対人的社会的能力・個人的社会的能力）

『調査の結果、作業態度、作業能力、対人的社会的能力、個人的社会的能力の4カテゴリーの中で、「社会生活上最も大切」とされたのは、全体としては、作業態度と対人的社会的能力であった。これを小学部、中学部、高等部で分けると、小学部では、対人的社会的能力、中学部では双方ともに、そして高等部では作業態度をより重視するという結果になった。』（カテゴリーと項目については、表1-1-12参照）。一方、作業能力は最も重視されなかった。

このように、同一の調査項目であっても、学年が上がるにつれて、すなわち就労の時期がより明確になるにつれて、重要とされる項目は異なってくる。しかしながら、実際には、どちらか一方をより重視するようになるのではなく、全体的に要求される水準が上昇するのではないかと考えられる。

表 1-1-12 職業的能力に関する 4 カテゴリー 12 項目

【作業態度】	【作業能力】
与えられた役割や作業を最後までやり遂げる 登校（出勤）時間や授業（作業）開始時間を守る 長時間仕事に連続して打ち込む	求められる正確さで作業する 新しい作業内容や手順を短時間で覚える 求められる速さで作業する
【対人的社会的能力】	【個人的社会的能力】
必要なときにみんなと協力する 他人からの指示に適切に従う 必要な時に他人からの援助や指示を求める	身だしなみや食事作法が清潔である 自分で切符を買って交通機関を利用する 自分の意志を他人に伝える

(2) 社会生活を送る上で心配される項目についての検討

この調査からは、『カテゴリーを作業と社会性にまとめて、作業重視者と社会性重視者の割合を比較したところ、社会性重視者が小学部で 8 割、中学部で 7 割、高等部で 6 割を占めた』という結果が得られた（カテゴリーと項目については、表 1-1-13 参照）

報告書では、この結果を『社会生活上大切な事柄として作業よりも社会性が重視されることは、一般就労を進める上で望ましい傾向だと思われる。』と評価している。また、その評価の理由として、『一般就労した精神遅滞者のかなり多くの者が社会的技能面の問題から離職に追い込まれるという事実』を挙げている。このことは、我々が調査にあたる項目を策定する際に、作業的な側面だけでなく、社会生活に関わる領域にも十分に考慮する必要性を示唆した結果といえる。

表 1-1-13 社会生活を送る上で心配な項目（社会適応上・職場適応上）

【社会適応上の問題】		【職場適応上の問題】	
カテゴリー	項目	カテゴリー	項目
社会適応技能	基礎的学力 コミュニケーション 交通機関の利用 金銭の取り扱い 電話の利用	作業技能	仕事量 仕事の正確さ 体力 指示理解
身辺処理 生活習慣 健康維持	身だしなみ 衛生概念 あいさつ・返事 健康状態	作業態度	集中力 持続力 自発性 責任感 協調性 安全の確認 仕事への意欲 出勤状況
性格	暴力・反社会的行動 反抗 引っ込みがち 不快な言葉使い 落ち着きのなさ 心理的不安定 自分本位		
対人関係	同僚とのつき合い 異性とのつき合い 性的問題		
家庭の問題	親の過保護 親の放任		

## 第6節 就労と職場適応をめぐる課題の総括

### - 課題の再構成を中心として -

第1節～第5節では、5つの研究(8つの報告書)について、それぞれの調査が行われた背景と調査項目についてまとめた。それぞれの研究が行われた背景は必ずしも同一とはいえ、また、その目的も異なるものの、調査に際して用いられた項目は、領域やカテゴリー名は違って、共通するものが多い。

ここでは、これらの各調査に用いられた調査項目を整理することで、就労とその後の職業生活への適応に関する課題について考えたい。

項目の整理にあたっては、まず「作業に直接的に関わる課題」であるかどうかという視点からの検討を試みた。もちろん、職業生活を支えていくためには、単に作業ができればよい、というものではないことはすでに先行研究により明らかである。したがって、一般就労を実現し、かつ適応的に継続するための課題には、「作業に直接的に関わる課題」とともに日常生活に関する課題などのように「作業に直接的に関わらない課題」についての検討も必要となる。しかしながら、検討を始めるとすべての課題が単純にこの2つのいずれかに分類できるというわけではないということに気づいた。というよりは、例えば、『数の理解』に関する課題は、従事している仕事の種類によっては、「作業に直接的に関わる課題」であり、他の仕事では「作業に直接的に関わらない、日常的な生活場面でのみ必要とされる課題」でもあるというように、明確に区別できないことが多い。また、実際に課題の多くは、日常的な生活の場面でも、作業の場面でも、共に必要とされる課題であると考えられる。

そして、この「日常的な生活の場面でも必要とされる課題」であることによって、家庭から学校へ、次いで職業の場へと進んでいく過程で、「就労を目指す」か否かに関わらず、獲得することが望ましい、挑戦すべき課題となる。その結果、これらの課題は教育課題として位置づけられると同時に職業準備の課題としても位置づけられ、連続した指導の対象となるのである。したがって、「作業に直接的に関わるかどうか」という視点から、2つに分類することは困難であるといえる。

次に、課題が『個人的な課題』であるか、『対人的な課題』であるかという視点から検討した。

『個人的な課題』は、例えば、「身だしなみ」のように他者の存在を意識した課題であっても、実際に課題を遂行する際には他者の存在を必要としない課題である。これに対し『対人的な課題』は、「挨拶・返事」などのように、課題の遂行に際して、他者の存在を必要とする課題である。

この分類は、指導場面などを考えるとわかりやすい。『個人的な課題』は、一人でも学習することができる(「身だしなみ」であれば、鏡の前で一人で練習ができる)が、『対人的な課題』では、一人での学習はあまり意味をなさない(「挨拶・返事」は一人でも練習できるが、相手がいると緊張して挨拶も返事もできなくなる、など)と考えられる。もちろん、この分類であっても、すべての課題について明確に分類できるわけではない。しかしながら、ここでは、多数ある課題を分類するための1つの基準として用いることとする。

この検討のために、まず、第1節～第5節において挙げられた項目のうち、それぞれに共通する項目をまとめた表を作成した。表の作成に際しては、暫定的ではあるが、先行研究を参考にできるだけ類似した項目同士が近くに配置されるように考慮した。

先行研究の9つの表から得られた項目には、共通点も多く、このことは、一般就労の実現と継続をめぐる課題について研究者間で比較的一致した見解があることを示唆している。なお、検討に用いた項目は、以下の～の9つの表に含まれる項目である。

#### 1 『精神薄弱者の職場適応をめぐる』

表 1-1-1 (社会生活能力調査票) 6 領域 40 項目

表 1-1-2 (職場に適応していくための個人的要因) 5 領域 25 項目

#### 2 『精神薄弱者の職場適応とその改善・向上』

表 1-1-3 (職場適応評定尺度) 9 領域 60 項目

#### 3 『精神薄弱者の職業準備に関する調査研究』

表 1-1-7 (「精神薄弱者」が安定した職業生活を送るために身につけておくのが望ましい課題) 20 項目

表 1-1-8 (身辺処理及び社会性に関する下位項目) 2 領域 19 項目

表 1-1-9 (個人的・社会的技能要件) 20 項目

#### 4 『精神薄弱者の職業準備に関する調査研究』

表 1-1-10 (作業場面に基づく評価基準) 2 領域 19 項目

#### 5 『精神薄弱児の社会的自立に関する研究』

表 1-1-11 (職業的能力に関するカテゴリと項目) 4 カテゴリー 12 項目

表 1-1-12 (社会生活を送る上で心配な項目：社会適応上/職場適応上) 7 カテゴリー 33 項目

表 1-1-14 先行研究における課題の整理

	健康管理	身辺処理	余暇の利用
	健康管理		
	健康管理		
		髪の手入れ、ひげそりなどが行き届いている 衣服をきちんと身につけている 食事のマナーや動作ができています お手洗いの使用などに問題はない 人に言われなくても、身辺を清潔にできる	休憩時間などでは、周囲の人々と楽しく交流できる
	健康管理	身辺処理	余暇をうまく利用できること
		食事 / 排泄 / 洗面 / 衣服の着脱 / 寝具 / 入浴 / 整理整頓 / 清潔 / 身だしなみ	
		身体, 服装の清潔さ	
	健康状態		
		身だしなみや食事作法が清潔である	
	健康状態	身だしなみ 衛生概念	

	作業能率 (出来高)	作業の正確さ	理解と習熟 (指示の理解・注意の持続)	体力 (連続して作業する力)
	仕事の能率			
	作業の能率			
	仕事が速く、十分な量をこなす	仕事が正確で丁寧である	指示した通りの仕事ができる 仕事に早く慣れる 仕事が変わってもまごつかない かなり難しい仕事でもこなせる できる仕事の種類が割合に多い よく指示に従い、手がかからない 簡単なことはすぐに理解し、 確実に実行できる 一度習った仕事はよく覚えている 職場環境の変化にもよく 適応できる	
		仕事を確実にこなせること		仕事に耐えられる体力があること
			リーダーの指示に従える	
	常に一定の速さで作業する 命令、あるいは、指示に従う 規定された手順、あるいは 時間内で作業する 予定通りに作業を進める		命令、あるいは、指示に従う	8時間勤務に耐える スタミナがある 力がある
	能率(作業スピード)	正確性	習熟(飲み込み、上達は良いか) 修正能力(失敗を繰り返さないか) 指示理解 理解の持続性 (学んだことを覚えているか)	
	求められる速さで作業する	求められる正確さで作業する	新しい作業内容や手順を 短期間で覚える	
	仕事量	仕事の正確さ	指示理解	体力

注) 表側の番号は、検討に用いた表に付した番号に対応する(前頁参照)

	出勤・遅刻・早退について	時間・規則の厳守	作業に対する意欲	集中力と持続力	責任感	作業態度
	欠勤しないか	会社での時間の守り方 職場での規律の守り方	仕事への意欲	仕事をしているときの態度 集中性について 仕事に対する持続性 慎重にする態度	仕事への責任感	
	出勤率	時間を守る 規則を守る	作業への意欲	集中力 持続性	責任感	
	理由のはっきりしない遅刻・欠勤がない	時間をよく守り、けじめのある行動をする 職場の決まりをよく守ろうとする		辛抱強く飽きない方である 疲れを訴えることなく、粘りがある	責任感があり、仕事を任せられる 自分のミスは責任を持って直そうとする 目標を持って一貫した行動がとれる	真剣に仕事に取り組む 仕事にやり取りが少ない 気に入らない仕事にも、よく耐える 賃金や待遇に特に不満を訴えない 常時、監督しなくても与えられた仕事はやっていける 職場の士気(やる気)を高めるのにプラスする
		職場の規則や常識が守れること	仕事への意欲を持っていること	仕事をする持続力があること 仕事への集中力があること		
		ルールや習慣を守ることができる				
	出勤、退出、あるいは休憩などの時間を守る			反復作業に耐える		上司、同僚の監督なしで、働く 周囲に気を取られず仕事をする
			意欲的に作業するか	作業の持続性 集中力	作業にムラはないか (不得手な仕事もやるか)	陰日向なく作業できるか
	出勤時間や作業時間を守る			長時間連続して仕事に打ち込む	与えられた役割や作業を最後まで やり遂げる	
	出勤状況		仕事への意欲	集中力 持続力	責任感(不得手な仕事もやるか)	

	仕事の準備と後かたづけ	道具・設備などの使用	自発性	巧緻性	作業能力
	仕事の準備について 仕事の後始末のしかた	ものを大切に扱うか			
	作業の準備 作業の後始末	ものを大切に扱う			
	仕事の整理・整頓ができる	道具・設備などの使用が、かなり良くできる	積極的、能動的で、自発性に富む 他人の気持ちを汲んで、自発的に対処する 自発的・意欲的に(作業に)取り組む		自分で工夫して仕事ができる 仕事の流れに乗る
		作業手順、危険標識、名称などを記憶する		器用さが要求される	複数の作業をほぼ同時に行う
	仕事の準備・後かたづけ			巧緻性	
			自発性		

	挨拶・返事	協調性		電話の利用	仕事の報告	伝言の力	礼儀（言葉遣い/態度）	コミュニケーション（その他）
		（同僚とのつきあい）	（異性とのつきあい）					
	朝夕の職場での挨拶 職場で呼ばれたときの返事	同僚との協調性		電話の利用	仕事の報告	伝言の力	上司からの注意を受ける態度 礼儀（言葉遣い・態度）	
	挨拶 返事	協調性 同僚とのつきあい			仕事の報告	伝言の力	注意を受ける態度	
	挨拶、応答などが普通にできる	他の人々と仲良く協力しあう 他人の仕事でも必要な時にはよく手伝う 上司、同僚から信頼されている 休憩時間などでは周囲の人と楽しく交流できる	職場の同僚や異性との間で いざこざを起こさない				自分の立場をわきまえた話し方ができる 感情に走らず、冷静に話ができる	分からないことは素直に質問する 言葉で表現しなくても、こちらの意思を察知できる
	他人と意思交換ができること	集団活動に参加できること 他人と協調できること						
	自分から挨拶する	同僚の中に自分から入ることができる 決まった友人がいる 集団生活に参加できる 多少いやなことがあっても我慢できる					来客と簡単な対応ができる	人の前で話ができる
		上司、同僚とつきあう（社交性） 上司、同僚に質問や援助を求める 他の仕事との調整、または、他人と協力する			意思の伝達、仕事についての 報告をする			
					質問・報告		注意を聞く態度 指示を聞く態度	
		必要な時にみんなと協力する 必要な時に他人からの援助や支持を求める 他人からの指示に適切に従う				自分の意志を 他人に伝える		
	コミュニケーション 挨拶・返事	協調性 同僚とのつきあい	異性とのつきあい 性的問題	電話の利用				

交通機関の利用（移動）	文字に関する知識と能力	数量に関する知識と能力	時間に関する知識と能力	金銭に関する知識と能力	安全に関する知識と能力
工場内での仕事に必要な移動力 工場周辺での外用（移動能力として） 乗り物を使っての外用	綴る力 住所・氏名・生年月日に関する理解力と 使用する力	数を数える力 加算の計算力 減算の計算力 長さの活用 重さの理解と活用	時間の把握		危険物に対する注意
職場内外の移動		数の処理	時間の把握		危険に対する態度
目的地に移動できること	文字の読み書き	計算ができること	時間管理ができること	金銭感覚があること	職場の安全に対する配慮ができる 仕事をする際に安全に配慮できること
					危険を伴う作業には、注意を払う
					安全への理解
自分で切符を買って交通機関を利用する 交通機関の利用		基礎学力		金銭の取り扱い	安全の確認

	働くことの理解	生活設計	自分の能力や特徴の理解（資格の所持）
	会社で仕事をするということ 自分の生活との関連性	将来の自分の生活に対する考え	自分の仕事のやれる力
	働くことの理解	将来の生活設計	
			自分の能力や特徴を理解している どういう仕事に向いているのか知っていること 仕事に役立つ資格を持っていること

	自己統制力	情緒の安定	行動的側面
	自己統制力について		行動性
	対人関係で、よく自分の行動を コントロールする	落ち着きがあり情緒的に安定している 仕事中は精神的に安定している	明朗でいつも快活である 反抗，言い逃れなどが少ない 多動，おしゃべりの傾向がない わけのわからない要求を持ち出すことはない 他人の言いなりになるようなことはない 基本的な事柄の判断が身についている
		情緒の安定を保てること	乱暴な行動はとらない
	自分本位	心理的不安定 落ち着きのなさ	暴力・反社会的行動 反抗 引っ込みがち 不快な言葉遣い

次に、以上の 38 項目について、『個人的課題』に属すると考えられる項目、『対人的課題』に属すると考えられる項目にそれぞれ分類した。

### (1) 個人的課題

「個人的課題」に分類されたのは以下の 28 項目であった（表 1-2-15）が、これらの課題をさらに、作業との関連性が高い課題と 作業との関連性が低い課題に分類した。作業との関連性については、必ずしも明確に分類できないことは、先に述べた通りであるが、ここでは、表 1-2-14 の下位項目中で「作業」や「仕事」という場面が限定されているものについては、関連性が高い課題、それらの限定がない場合には、関連性が低い課題という分類基準を用いた。

表 1-2-15 『個人的課題』に属する項目

健康管理 身辺処理 余暇の利用	作業能率 作業の正確さ 体力	出勤・遅刻・早退 規則の遵守 作業に対する意欲 集中力・持続力 責任感 自発性 作業態度
時間に関する知識と能力 金銭に関する知識と能力 安全に関する知識と能力 交通機関の利用 文字に関する知識と能力 数量に関する知識と能力	理解と習熟 判断力 巧緻性 作業能力 仕事の準備と後かたづけ 道具・設備などの使用	
自分の能力・特徴についての理解 働くことへの理解 生活設計		

印は、作業との関連性が高い、 印は、作業との関連性が低い

28 項目中、 作業との関連性が高いとされた項目は 18 項目、低いとされた項目は 8 項目あった。また、ここで定めた分類基準（場面の限定）による基準では分類できなかった項目が 2 項目（安全に関する知識と能力・交通機関の利用）あった。これらの項目については、下位項目を検討した結果、作業との関連性の低い課題に分類した。

### (2) 対人的課題

「対人的課題」として考えられる項目は、以下の 7 項目である。

挨拶・返事 協調性 （同僚とのつきあい・異性とのつきあい）	電話の利用 仕事の報告 伝言の力 礼儀（言葉遣い／態度） コミュニケーション（その他）
-------------------------------------	---

なお、「自己統制力」「情緒の安定」「行動特性」の3項目については、個人の障害特性と重なる部分もあるため、他の項目と同一に扱うことはできない。そこで、これらの項目に関しては、例外的に先述の2分類に含めずに、「行動特性に関する課題」として単独で扱うこととした。

## 第2章 学習指導要領に掲げられた課題と項目の総括

### - 学校時代の教育の目標をめぐって -

第1章第1節第3項で述べた「職業準備」の概念は、「「精神薄弱者をはじめ幼いときからの障害者については、幼児期の家庭からはじまり、成人への過程を経、成人になってからの段階に至るまでの長期にわたる、一貫的、体系的、かつ総合的な就労ないし職業生活の確保を可能とする能力（就労能力、職業能力）の養成をはかるといふねらい」=『理念』（身体障害者雇用促進協会、1985）」に基づくものであるという。しかし、障害が重複化、重度化する中で、すべての者が学校を卒業すると同時に職に就けるわけではない。また、長期的な展望のなかでも就職が困難な者も少なくはない。そのため、学校卒業後の進路に対する考え方も「できれば一般雇用（企業への就職）を増やしたい」という意見から「一般雇用にこだわらず（どんな形の就業でもよいから）就業できる者を増やしたい」さらには、「必ずしも就業にこだわらなくてもよい」まで、幅を持ったものになる。このうち、どの選択肢を選ぶかは、対象者の特性や保護者の考え方と関係が深いと思われるが、養護学校教員では21名中16名が「一般雇用にこだわらず（どんな形の就業でもよいから）就業できる者を増やしたい」と回答したこと（身体障害者雇用促進協会、1985）は興味深い。対象者の人数が少ないため、必ずしも「一般雇用にこだわらない」という点をこの時点での養護学校教員の代表的な意見とすることは難しいが、いずれにせよ「社会的自立の中心的課題の1つとして就労が挙げられている」と考えてよいのではないだろうか。

ところで、「働く」ことを支えるために必要な基礎的な力は、第1章の中で検討されたように、実際の「日常生活」を支え、また、生活を豊かにするための課題と共通するものが多いと考えられる。このことは、就労を目指すための指導が教育課題の中に位置づけられていることを意味する。しかしながら、就労を目標とする場合としない場合とでは、同一の課題に関して異なった基準が用意される可能性がある。

さらに『我が国では、学校 職場という直接的な関係であるため、学校教育の中での職業準備性の確立への期待が大きい。また、場合によっては、就職後に作業訓練とともに、日常生活訓練も行わなければならないという場合も含んでおり、精神薄弱者の雇用拡大を一層困難にしている（秋庭・館、1986）』という指摘にみられるように、卒業の時点で、直接的に作業に関わらない日常生活に関する課題であっても、必ずしも達成されていない場合も多い。

ここでは、学校を卒業するまでに知的障害児・者はどのような準備をしているのかについて、学校教育の課題を中心に検討する。というのは、就労の準備に関しては、家庭の教育も重要な働きをされると考えられるが、小学校から中学校（あるいは高等学校）までの9～12年間を過ごす教育の場における経験が重要な意味を持つと考えられるからである。ここで、特殊教育諸学校の学習指導要領を参考に、どのような目標を持って指導されているのかについて検討することを試みる。

特殊教育諸学校高等部学習指導要領解説（養護学校 - 精神薄弱教育編、1992）によれば、教育一般の

目的は、『…………すなわち、それは、精神薄弱の児童・生徒に対して、その能力に応じる知識・技能を授けるとともに、その社会適応性を助長するような具体的で総合的な指導を行い、もって生活の自立をねらいとした人格の形成に努めるということに焦点をしばって定められなければならないであろう。…………』となる。そして養護学校におけるより具体的な教育の目標は『……要約すれば、精神薄弱の児童・生徒が、できるかぎり身の生活を確認・処理し、進んで集団生活に参加していくとともに、社会生活への理解を深め、経済生活及び職業生活に適応していくための知識・技能を、彼らの知能の程度やその能力に即して身につけさせるということにつきる。……』となる。すなわち、

- |                      |
|----------------------|
| (1) 身の生活の確認と処理       |
| (2) 集団生活への参加と社会生活の理解 |
| (3) 経済生活及び職業生活への適応   |

のための『知識』と『技能』を身につけることが目標となっている。

ここからは、学校時代に獲得しようとしている課題について考える際に『知識』と『技能』の両側面から考えなくてはならないということが示唆される。

また、「教育一般の目的」の文章中には明確に述べられてはいないが「集団生活への参加」に重要な意味を持つ、性格・気質などに基づく行動特性に関する側面も考慮しなくてはならない。したがって、『(性格・気質に基づく)行動特性』に関する側面についても検討する必要がある。

では、学校時代に求められている課題とは具体的にはどのような課題であろうか。小学校時代も含め指導要領等を参考に各教科毎の課題を整理してみたい。ただし、教科によっては「就労」との関連に強弱があると思われる。そこでここでは、第1章で検討された課題との関連が深いと考えられる「生活」「社会」「算数(数学)」「国語」「職業」「家庭」「保健」の課題について取り上げ、学年と目標とされる課題との関係について整理する(「理科」「音楽」「図工」「体育」については巻末の資料を参照)。

【生活：基本的生活習慣】

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師と一緒に食前に手を洗う。</li> <li>2. 配膳のときに、行儀よく待つ。</li> <li>3. 教師と一緒に、自分の食器を並べたり、片付けたりする。</li> <li>4. 食前・食後のあいさつのしぐさをする。</li> <li>5. スプーン・フォークやはしを使って食べる。</li> <li>6. ストローやコップで飲む。</li> <li>7. 茶わんなどおさえて食べる。</li> <li>8. 好ききらいをしないで食べる。</li> <li>9. 食事の途中で遊ばないで食べる。</li> <li>10. よくかんで食べる。</li> <li>11. 食べてはいけないといわれたものは食べない。</li> <li>12. 食後、指示されて口のまわりをふく。</li> <li>13. 教師と一緒に、こぼしたものをふく。</li> <li>14. 一定時刻に、教師と一緒に、用便に行く。</li> <li>15. 尿意、便意、粗相を告げる。</li> <li>16. パンツやズボンなどを脱がせてもらって用を足す。</li> <li>17. 教師と一緒に、用便後、手を洗う。</li> <li>18. 教師と一緒に、寝まきに着替える。</li> <li>19. 指示されて、寝る前に用便に行く。</li> <li>20. 一人で寝る。</li> <li>21. 教師と一緒に、歯みがきや洗面をする。</li> <li>22. 教師と一緒に、手足を洗ったり、ふいたりする。</li> <li>23. 教師と一緒に、鼻汁をかむ。</li> <li>24. いつもハンカチやちり紙を持っている。</li> <li>25. いやがらずに、髪をとかしてもらう。</li> <li>26. いやがらずに爪を切ってもらったり、耳あかをとってもらったりする。</li> <li>27. 入浴前は、用便をすませる。</li> <li>28. 教師と一緒に、腕、足、胸などを洗う。</li> <li>29. いやがらずに髪を洗ってもらう。</li> <li>30. 教師と一緒に、自分の体をふく。</li> <li>31. 教師と一緒に、簡単な衣服の着脱をする。</li> <li>32. くつを一人で履いたり脱いだりする。</li> <li>33. 教師と一緒に、雨具を使用する。</li> <li>34. 自分のぼうし、洋服、くつ、かばんなどがわかり、教師と一緒に決められたところに置く。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一人で食前に手を洗う。</li> <li>2. 自分の食器を並べたり、片付けたりする。</li> <li>3. 食前・食後のあいさつをする。</li> <li>4. スプーン・フォークやはしを使って、こぼさないように食べる。</li> <li>5. ストローやコップで上手に飲む。</li> <li>6. 必要があれば、茶わんなどを手に持って食べる。</li> <li>7. 主食と副食を取り合わせて食べる。</li> <li>8. 行儀よく食べる。</li> <li>9. 食後、一人で口のまわりをふく。</li> <li>10. 簡単な献立の名前をいう。</li> <li>11. しょうゆやソースなどを上手に使う。</li> <li>12. 教師と一緒に、食事の前後にテーブルをふく。</li> <li>13. 一人で用便に行き、用をたす。</li> <li>14. 男女の便所のしるしを見て用をたす。</li> <li>15. 便所へ入るときは、ノックをし、戸をしめて用をたす。</li> <li>16. 用便後一人でふき、服装を整える。</li> <li>17. 水洗便所ときは、使用後水を流す。</li> <li>18. 用便後、手を洗う。</li> <li>19. 指示されて、決まった時刻に寝起きする。</li> <li>20. 一人で寝まきに着替える。</li> <li>21. 寝る前に一人で用便に行く。</li> <li>22. 朝のあいさつや寝るときのあいさつをする。</li> <li>23. 教師と一緒に、自分の布団を敷く。</li> <li>24. 一人で歯みがきや洗面をする。</li> <li>25. 一人で手足を洗ったり、ふいたりする。</li> <li>26. 一人で鼻汁をかむ。</li> <li>27. ハンカチやちり紙を上手に使う。</li> <li>28. 教師と一緒に、髪をとかす。</li> <li>29. 教師と一緒に、爪を切る。</li> <li>30. 教師と一緒に、身体や体を洗う。</li> <li>31. 入浴後教師と一緒に、用具の後片付けをする。</li> <li>32. 簡単な衣服の着脱をする。</li> <li>33. 衣服の前後・裏表に気をつけて着脱する。</li> <li>34. 教師と一緒に、脱いだ衣服をたたむ。</li> <li>35. ハンガーを使って、衣服を始末する。</li> <li>36. くつの左右を区別して履く。</li> <li>37. 自分の脱いだ履きものをそろえる。</li> <li>38. 自分の帽子、衣服、かばん、くつなどを決められた所に置く。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簡単な食事の準備や後片付けをする。</li> <li>2. 魚の細かい骨をより出して食べる。</li> <li>3. 身体をよくするために、好ききらいをしないで食べる。</li> <li>4. 作法を守って食事をする。</li> <li>5. 食べたい献立の名前をいう。</li> <li>6. 一人で調味料を上手に使う。</li> <li>7. 便器のまわりを汚さないで用をたす。</li> <li>8. 便所のいろいろな表示が分かる。</li> <li>9. 自分の家や学校以外の便所も一人で使う。</li> <li>10. 出かけるときや集会の前などには、自分から用をたす。</li> <li>11. 決まった時刻に寝起きする。</li> <li>12. 着替えた衣服の始末をする。</li> <li>13. 夜中でも、一人で用便に行く。</li> <li>14. 自分から朝のあいさつや寝るときのあいさつをする。</li> <li>15. 教師と一緒に、布団の上げ下ろしをする。</li> <li>16. 自分からすすんで歯みがきや洗面をする。</li> <li>17. ハンカチやちり紙を自分で用意する。</li> <li>18. 一人で髪をとかす。</li> <li>19. 一人で爪を切る。</li> <li>20. 一人で散髪に行く。</li> <li>21. 湯かげんをみてから浴槽に入る。</li> <li>22. 浴槽に入る前に、股間や手足などを洗う。</li> <li>23. 一人で入浴し、自分から体を洗う。</li> <li>24. 一人で髪を洗う。</li> <li>25. 入浴後、体をよくふき着衣する。</li> <li>26. 入浴後、用具の後片付けをする。</li> <li>27. そで、えりなど衣服の各部の名称が分かる。</li> <li>28. 自分の衣服の始末をする。</li> <li>29. 衣服のよごれやほころびに気づいて、着替える。</li> <li>30. 寒暖や天候に合わせて、衣服を調節する。</li> <li>31. 運動や作業などのときは、決められた服装をする。</li> <li>32. いろいろな履物を、場や天候に合わせて選んで履く。</li> <li>33. 雨具を使用し、始末する。</li> <li>34. 自分の衣服や持ち物を決められた場所に、整頓して置く。</li> <li>35. 机の引出しやロッカーなどを、上手に使用する。</li> <li>36. リュックサックやバックを上手に使用する。</li> </ol>

【生活：健康・安全】

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<ol style="list-style-type: none"> <li>けがしたときなど、教師と一緒に保健室に行く。</li> <li>付き添われて、健康診断や予防接種を受ける。</li> <li>外から帰ったときやかぜをひいたときは指示されてうがいをする。</li> <li>ビー玉や硬貨などを口や耳に入れない。</li> <li>階段やスロープのそばで悪ふざけをしない。</li> <li>廊下・階段などころばないように歩く。</li> <li>交通信号に注意しながら、教師と一緒に行動する。</li> <li>教師と手をつなずに道路を安全に歩く。</li> <li>教師と一緒に横断歩道を渡る。</li> <li>避難訓練のときは、教師と一緒に行動する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>腹痛、歯痛などを教師に告げる。</li> <li>身体測定の結果に関心を持つ。</li> <li>日常用いる主な医薬品に関心を持つ。</li> <li>外から帰ったときやかぜをひいたときは、すすんでうがいをする。</li> <li>物を投げたり、高いところへ登るなど、危険な遊びをしない。</li> <li>ガスの栓、マッチ、刃物などの危険な物にむやみに触れない。</li> <li>知らない人について行かない。</li> <li>道路を歩くときは、自動車に気をつける。</li> <li>道路を何人かで歩くときは、横に並んだりふざけたりしない。</li> <li>道路を横断するときは、左右を確かめ、手を上げて渡る。</li> <li>道路を横断するときは、横断歩道や歩道橋を渡る。</li> <li>踏切を渡るときは、左右を確かめ、警報機のあるときは、それに従う。</li> <li>道路へ急に飛び出さない。</li> <li>避難訓練のときは、すすんで教師の指示に従う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>友達がけがをしたり、体の異常なときは、教師に告げる。</li> <li>一人で保健室を利用する。</li> <li>身体測定の結果が分かり、自分の体の成長に関心を持つ。</li> <li>すすんで、健康診断や予防接種を受ける。</li> <li>病気やけがをしたときは、必要な薬を飲んだり、必要な治療を受けたりする。</li> <li>生理のときは、教師に告げ、処置をする。</li> <li>外から帰ったときやかぜをひいたときは、すすんでうがいをする。</li> <li>電気器具、ガス栓、マッチ、刃物などを安全に取り扱うことに慣れる。</li> <li>火災報知器や消火器にむやみに触れない。</li> <li>交通信号の見方が分かり、信号に従う。</li> <li>道路は右側を歩き、歩道のある場合は歩道を歩く。</li> <li>「通行止」、「横断禁止」、「危険」などの標識が分かり、指示を守る。</li> <li>交通のひんばんな道路では遊ばない。</li> <li>避難のときは、すすんで教師の指示に従う。</li> <li>部室の換気や採光に注意する。</li> <li>家や学校の内外の危険な場所で遊ばない。</li> <li>ガラスの破片などの危険物を取り除く。</li> </ol>

1.

【生活：遊び】

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<ol style="list-style-type: none"> <li>一人で好きなことをして遊ぶ。</li> <li>教師のまねをして手足を動かして遊ぶ。</li> <li>テレビや絵本など、教師と一緒に楽しむ。</li> <li>すもう、かけっこなどをして遊ぶ。</li> <li>おもちゃなど身近にある物で遊ぶ。</li> <li>ぶらんこ、すべり台などで遊ぶ。</li> <li>三輪車などに乗って遊ぶ。</li> <li>教師と一緒に、遊具などの後始末をする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教師と一緒に、簡単なごっこ遊びをする。</li> <li>テレビや絵本など、に関心を持ち、楽しんで見る。</li> <li>じゃんけんのしぐさをして遊ぶ。</li> <li>簡単なルールのある遊びをする。</li> <li>順番とか交代とかの意味が分かり、わがままを言わないで遊ぶ。</li> <li>玉入れ、かるた取りなどで遊ぶ。</li> <li>簡単な遊具などで遊ぶ。</li> <li>シーソー、鉄棒などで遊ぶ。</li> <li>補助車つきの自転車に乗って遊ぶ。</li> <li>指示されて、遊具をゆずる。</li> <li>自分の使っている遊具などを取られたら、返してもらおうとする。</li> <li>指示されて、遊具などの後始末をする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒に、いろいろな遊びをする。</li> <li>テレビの番組を自分で選んで視聴する。</li> <li>遊びにじゃんけんをつかう。</li> <li>自分で遊びを選んだり、考えたりする。</li> <li>グループを作り、ルールを守って遊ぶ。</li> <li>仲間に入れない友達を誘って、一緒に遊んでやる。</li> <li>自分で簡単な遊具を作って遊ぶ。</li> <li>補助車のない自転車に乗って遊ぶ。</li> <li>遊具などをゆずり合って使う。</li> <li>共同の遊具などを大切に使う。</li> <li>すすんで遊具などの後始末をする。</li> <li>室内の遊びと、室外の遊びを区別する。</li> </ol>

【生活：交際】

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要なときに、自分の名前を言う。</li> <li>2. 教師の名前や友達の名前を言う。</li> <li>3. 友達と手をつなぐ。</li> <li>4. 指示されて、「おはよう」、「さようなら」などのあいさつをする。</li> <li>5. 聞かれば、見たこと、遊んだことを話そうとする。</li> <li>6. 指示されて、「ありがとう」、「ごめんなさい」を言う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の家族の名前が言える。</li> <li>2. 自分の学校の教師、親せきの人、などの名前を言う。</li> <li>3. 身近な人に、自分から「おはよう」、「さようなら」などのあいさつをする。</li> <li>4. 聞かれば、教師に、見たこと、聞いたこと、遊んだことを話す。</li> <li>5. 人の来訪を教師に告げる。</li> <li>6. 友達から借りた物は、ていねいに返す。</li> <li>7. 「ありがとう」、「ごめんなさい」を言う。</li> <li>8. 指示されて、友達におもちゃや学用品を貸す。</li> <li>9. 指示されて、友達の手助けをする。</li> <li>10. 手伝ってもらって、年賀状などを書く。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簡単な自己紹介をする。</li> <li>2. 自分の住所を言う。</li> <li>3. 自分の家の電話番号を言う。</li> <li>4. 身近な人に、簡単な日常のあいさつをする。</li> <li>5. 見たこと、聞いたこと、遊んだことを教師や友達などと話し合う。</li> <li>6. 電話や来客があったときは、取り次ぎをする。</li> <li>7. 友達のあやまちをむやみにとがめない。</li> <li>8. 「ありがとう」、「ごめんなさい」などを適切に言う。</li> <li>9. 学用品などを忘れて困っている友達に、自分の物を貸す。</li> <li>10. 友達との約束を守る。</li> <li>11. 年賀状や礼状などの手紙を出す。</li> </ol>

【生活：役割】

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 誕生会、遠足、運動会などに参加する。</li> <li>2. 指示されて、あいさつの号令かけや黒板ふきなどの係活動をする。</li> <li>3. 教師と一緒に地域の祭りなどの行事に参加する。</li> <li>4. 給食のときに、教師と一緒に食器を並べたり、牛乳を配ったりなどの係活動をする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 誕生会や学級会などで、簡単な役割をする。</li> <li>2. 運動会や学芸会などで教師と一緒に、簡単な係活動をする。</li> <li>3. 教師と一緒に、地域の行事に参加し、簡単な役割をする。</li> <li>4. 教材配りや給食運びなどの係活動をする。</li> <li>5. 簡単な作業をみんなで一緒にする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 誕生会や学級会などで、司会などの役割を果たす。</li> <li>2. 運動会や学級会などで、簡単な係活動をする。</li> <li>3. 日直、給食当番、掃除当番などの係活動をする。</li> <li>4. 簡単な作業分担をする。</li> </ol>

【生活：手伝い・仕事】

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指示されて、ごみを拾ったり、ごみ箱のごみを捨てに行ったりする。</li> <li>2. 指示されて、学習用具などの後片付けをする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学級で配りものの手伝いをする。</li> <li>2. 他の教室などへ、物を届けたり、取りに行ったりする。</li> <li>3. 机やロッカーなどの中を整とんする。</li> <li>4. 窓の開閉などの手伝いをする。</li> <li>5. 簡単な掃除をする。</li> <li>6. 教師と一緒に、自分のハンカチやタオルの洗たくをする。</li> <li>7. 仕事に使う簡単な道具や器具の扱いに慣れる。</li> <li>8. 仕事の後片付けをする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他の教室などへ、伝言に行く。</li> <li>2. 掃除用具、運動用具、図書などの整理整頓する。</li> <li>3. みんなの脱いだ履き物の整とんをする。</li> <li>4. 窓の開閉、戸締まりなどをする。</li> <li>5. 決められた場所の掃除をする。</li> <li>6. ハンカチやタオルなどの洗たくをする。</li> <li>7. 仕事に使う道具や器具に慣れる。</li> <li>8. 道具や器具を大切に扱う。</li> <li>9. 修理の手伝いをする。</li> <li>10. 仕事がすんだら報告する。</li> <li>11. 草花や飼っている動物の世話をする。</li> </ol>

【生活：決まり】

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 始業，終業，給食などの合図に従う。</li> <li>2. 集合，整列，着席などの指示に従う。</li> <li>3. 上履き，下履きの区別をする。</li> <li>4. むやみに他の教室などに入らない。</li> <li>5. ごみはごみ箱に捨てる。</li> <li>6. 他人の物や学校の物を，無断で持って行かない。</li> <li>7. 乗り物の中では，歩きまわったり，騒いだりしない。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 登校・下校のときは，道草や寄り道をしない。</li> <li>2. ろう下を歩くときは，右側を歩く。</li> <li>3. 起床・就寝，登校・下校時刻などを知り，守る。</li> <li>4. 遠足などのときは，ごみの始末をする。</li> <li>5. 学校の図書や運動用具などを使ったら，必ず返す。</li> <li>6. 自分のものと他人のものを区別する。</li> <li>7. 停留所や駅などでは，並んで順番を待つ。</li> <li>8. 順番を守って，乗り物の乗り降りをする。</li> <li>9. 集会や校外学習などのときは，指示に従って行動をする。</li> <li>10. 決められた場所で遊ぶ。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の日課にそって生活する。</li> <li>2. 学校などで簡単な決まりをつくる。</li> <li>3. 登校・下校の時刻を守る。</li> <li>4. 集会や校外学習などのときは，集団行動に必要な決まりを守る。</li> <li>5. 公園や遊園地などの決まりを守る。</li> <li>6. 火災報知器や非常電話などをいたずらしない。</li> <li>7. 貴重品や書類に触れたり，それらを持ち出したりしない。</li> <li>8. 落し物を拾ったときは，教師に届ける。</li> </ol>

【生活：金銭】

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. お金が，大切なものであることが分かり粗末に扱わない。</li> <li>2. もらったお年玉や小遣いを大切に使う。</li> <li>3. 教師と一緒に，簡単な買い物をする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 10円，50円，100円，1000円などの貨幣や紙幣を使って買い物をする。</li> <li>2. 「これ」「ください」など，買い物に必要な簡単な言葉を使う。</li> <li>3. 小額で，決まった額の買い物なら1人でできる。</li> <li>4. 教師と一緒に，自動販売機を利用する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活には，お金が必要なことを知り，むだづかいをしない。</li> <li>2. 「いくら」「安い」「安い」「おつり」など，買い物に，必要な言葉を使う。</li> <li>3. 簡単なおつりのある買い物をする。</li> <li>4. 学用品などのおよその値段が分かって買い物をする。</li> <li>5. 簡単な自動販売機を利用する。</li> <li>6. 小遣いを自分で考えて使う。</li> <li>7. 旅行先でみやげなどを自分で考えて買う。</li> <li>8. 今すぐ使わないお金は，貯金したり，預金したりする。</li> </ol>

【生活：自然】

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公園，野山，川，海などで遊ぶ。</li> <li>2. 草摘み，木の実拾い，落ち葉拾い，石・貝がら拾いなどをして遊ぶ。</li> <li>3. あり，ちょう，かたつむりなどを探したり見たりして遊ぶ</li> <li>4. 草花に関心を持つ。</li> <li>5. 動物園，牧場などで遊ぶ。</li> <li>6. 「お日さま」，「お月さま」，「お星さま」などに関心を持つ。</li> <li>7. 晴，雨などの天気に関心を持つ。</li> <li>8. シャボン玉，風車などの遊びをする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 草木，木の実，落ち葉など，摘んだ物や拾った物を使って遊ぶ。</li> <li>2. 身近にいる昆虫，魚貝などを見たり，とったりする。</li> <li>3. 身近にいる小動物をかわいがる。</li> <li>4. 草花の球根などを植えて育てる。</li> <li>5. 蚊やはえなどの害虫に関心を持つ。</li> <li>6. 太陽，月，星などと，昼夜の簡単な関係に関心を持つ。</li> <li>7. 冬は寒く，夏は暑いなどの季節の特徴に関心を持つ。</li> <li>8. 紙飛行機，舟，こまなどを使って遊ぶ。</li> <li>9. 磁石や乾電池などを使って遊ぶ。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身近にいる昆虫，魚，小鳥などを飼育し，観察する。</li> <li>2. 草花や野菜などを栽培し，観察する。</li> <li>3. 蚊やはえなどの害虫を駆除する。</li> <li>4. 食物などにかびのはえたり，腐ったりすることに関心を持つ。</li> <li>5. 体の主なつくりや働きに関心を持つ。</li> <li>6. 太陽の日没の方角や月の満ち欠けなどを観察する。</li> <li>7. 四季の変化に関心を持つ。</li> <li>8. テレビの天気予報に関心を持つ。</li> <li>9. 地震や台風などに関心を持つ。</li> <li>10. 水鉄砲，糸電話，たこなどを作って遊ぶ。</li> <li>11. 鏡や虫めがねなどを使って遊ぶ。</li> <li>12. 電灯のスイッチ，懐中電灯などを正しく操作する。</li> </ol>

【生活：社会の仕組み】

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<p>1. 「おとうさん」、「おかあさん」、「おにいさん」、「おねえさん」たちと楽しく過ごす。</p> <p>2. 「お巡りさん」、「郵便屋さん」に関心を持つ。</p> <p>3. 救急車や消防車などが分かる。</p>	<p>1. 「おじさん」、「おばさん」などの親せきの人、近所の人の名前が言える。</p> <p>2. 家の人の職業が分かる。</p> <p>3. いろいろな種類の店があることが分かる。</p> <p>4. 学校や家の近くの交番や停留所・駅のあるところが言える。</p> <p>5. 救急車や消防車の仕事が言える。</p> <p>6. 自分の住んでいる町や村の山、川、海などについてはなせる。</p> <p>7. 自分の住む市（区・町・村）名が言える。</p> <p>8. 身近な社会の行事に関心を持ち参加する。</p> <p>9. 身近な乗り物の種類が言える。</p>	<p>1. いろいろな職業の名前が言える。</p> <p>2. いろいろな店で、売っているおよその品物の名前が言える。</p> <p>3. 工場や農家で作っている物のおよその名前が言える。</p> <p>4. 警察署、消防署、郵便局、病院、市役所（町・村役場）などのおよその働きが分かる。</p> <p>5. いろいろな地域の主な特徴に関心を持つ。</p> <p>6. 都道府県名がいくつか言える。</p> <p>7. 社会の行事、祝日などのおよその意味が分かり、話し合う。</p> <p>8. テレビなどを通して、身近な社会の大きな出来事に関心を持つ。</p> <p>9. 自動車や電車には、人を乗せるもの、荷物を運ぶものなど、いろいろな種類のあることを簡単に話せる。</p> <p>10. 自分の国の名や世界のいくつかの国の名が言える。</p>

【生活：公共施設】

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<p>1. 電車やバスに乗るときには、切符や定期券などを見せる。</p> <p>2. 通学の電車やバスに乗ることに慣れる。</p> <p>3. 教師と一緒に、学校の近くの公園や遊園地を利用する。</p>	<p>1. 教師と一緒に、電車やバスの切符を買う。</p> <p>2. 通学の電車やバスに乗せてもらって目的地で降りる。</p> <p>3. 自宅や学校内の電話の扱いに慣れる。</p> <p>4. 学校の近くのポストに手紙を投かんする。</p>	<p>1. 日常利用している電車やバスの切符を、自動販売機等で買う。</p> <p>2. 通学の電車やバスを一人で利用する。</p> <p>3. 公衆電話の扱いに慣れる。</p> <p>4. 火事や事故のとき、119番や110番に電話連絡する。</p> <p>5. はがきや切手の種類が分かり、利用する。</p> <p>6. 教師と一緒に、郵便局を利用する。</p> <p>7. 公園や遊園地を上手に利用する。</p> <p>8. 道が分からなくなったときは、交番などで尋ねる。</p>

【社会】

中学校	養護学校高等部
<p>1. 時と場所に応じて、適切な言葉や態度で対応する。</p> <p>2. 困ったとき、分からないときは、人に尋ねたり、教えてもらったりして、目的を果たす。</p> <p>3. 友達が困っているのを見たときには、手助けをする。</p> <p>4. 公衆電話のかけ方を知り、利用する。</p> <p>5. 年賀状、礼状などの手紙のやりとりをする。</p> <p>6. 身近な問題を仲間と話し合い、自分の意見も述べる。</p> <p>7. 他の人の迷惑にならないよう行動する。</p> <p>8. 他校の生徒や近隣の人々と交わり、地域の行事にも参加する。</p> <p>9. 男女の特性の違いを知り、ふさわしい行動をする。</p> <p>10. 学級や学校の行事などで、役割を分担して仕事をする。</p> <p>11. 学級や学校の決まりをよく守る。</p> <p>12. 日常生活に関係の深い市町村や国のいろいろな決まりを知る。</p> <p>13. 選挙の意味が大体分かり、市町村などの選挙に関心をもつ。</p> <p>14. 警察署、消防署、保健所、病院などの働きと自分たちの生活との関係を知る。</p> <p>15. 郵便局の働きを知り、切手やはがきを買ったり、郵便物を出したりする。</p> <p>16. 交通機関を利用し、そこで働いている人たちの仕事を知る。</p> <p>17. 身近な自動販売機を利用する。</p> <p>18. 市役所（町・村役場）や公民館などの働きを知る。</p> <p>19. 地域のいろいろな商店を知り、利用する。</p> <p>20. 新聞社や放送局などの働きに関心をもつ。</p> <p>21. 生産者と消費者をつなぐ商店、市場などの働きを知る。</p> <p>22. 農業、林業、漁業など自分たちの生活とのつながりを知る。</p> <p>23. 主な職業の種類と内容を知る。</p> <p>24. 工場などで、物を作る様子を知る。</p> <p>25. 勤労に対して、報酬が得られることを知る。</p> <p>26. 日常生活で使う水、電気、ガスなどの働きを知り、大切に使う。</p> <p>27. 学校周辺の道路や建物などを知る。</p> <p>28. 自分の住んでいる地域の地形などの特徴を知る。</p> <p>29. 簡単な絵地図や交通の路線図などが分かる。</p> <p>30. 地図を見て自分の住んでいる県の位置や世界の主な国の位置を知る。</p> <p>31. 昔の人々の生活の様子に関心をもつ。</p> <p>32. 学校のなりたちや地域環境の移り変わりに関心を持つ。</p> <p>33. 日本や世界の主な国の自然や生活の様子を知る。</p> <p>34. 国と国との協力することの大切さを知る。</p> <p>35. 新聞、テレビなどを通して、日本や世界の主な出来事に関心をもつ。</p>	<p>1. 自他の立場をわきまえて、適切な言葉や態度で対応する。</p> <p>2. 必要に応じて人に尋ね、用件を果たす。</p> <p>3. 電話の対応の仕方を知り、利用する。</p> <p>4. 必要に応じて、いろいろな手紙のやりとりをする。</p> <p>5. 身近な問題をグループで討議し、自分の意見をはっきり述べる。</p> <p>6. 学校や学級の行事などで、自分の役割をもち、責任を果たす。</p> <p>7. 男女の特性を理解し、正しい交際をする。</p> <p>8. 集団の決まりを守り、礼儀正しく行動する。</p> <p>9. 地域の行事には進んで参加し、近隣や地域の人々と交わる。</p> <p>10. 学校や学級には決まりの必要なことが分かり、決まりを守る。</p> <p>11. 日常生活に関係の深い市町村や国のいろいろな決まりを守る。</p> <p>12. 選挙の意味が分かり、市町村や国などの選挙に関心をもつ。</p> <p>13. 日本国憲法では、国民としての権利、義務などの重要な事柄が定められていることを知る。</p> <p>14. 警察署、消防署、保健所、病院などの働きを知り、利用する。</p> <p>15. 郵便局や銀行などの働きを知り、利用する。</p> <p>16. 交通機関の働きを知り、利用する。</p> <p>17. 自動販売機のいろいろな種類を使い分けられるようにする。</p> <p>18. 市役所（町・村役場）や公民館などの働きを知り、利用する。</p> <p>19. 専門店、デパート、劇場などを知り、利用する。</p> <p>20. 新聞社や放送局などの働きを知り、生活との関係を知る。</p> <p>21. 生産者と消費者との結びつきを知る。</p> <p>22. いろいろな産業と自分たちの生活との関係を知る。</p> <p>23. 職業の種類を知り、どの職業も社会に必要なことがわかる。</p> <p>24. 多くの人々の働く様子を知り、労働を収入の関係を理解する。</p> <p>25. 経済的にも時間的にも、計画を立てて生活することの必要性を知る。</p> <p>26. 社会福祉施設や機関などについて、その内容を知る。</p> <p>27. 水道、電気、ガスなどの事業や廃棄物の処理について知る。</p> <p>28. 簡単な地図、交通の路線図を作り、地理について理解する。</p> <p>29. 地図を見て、自分が住んでいる県や市、世界の国々の位置が分かる。</p> <p>30. 古い建物や史跡などを見学したりして、昔の生活に関心をもつ。</p> <p>31. 昔の人々の生活の様子を知り、その変化を理解する。</p> <p>32. 地域の文化財や行事に関心をもち、昔のものを大切にする。</p> <p>33. 世界の国々の自然の生活の様子を知り、わが国との関係について考える。</p> <p>34. 世界の国々が協力し合うことの大げさを知る。</p> <p>35. 時事問題に関心をもち、その内容を知る。</p> <p>36. 災害や公害について関心をもち、日常生活で必要な注意をする。</p>

【算数】

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校	養護学校高等部
<p>1. 目の前で隠されたものを探す。</p> <p>2. 身近にあるものや人の名を聞いて指さす。</p> <p>3. 形や色の同じものを選ぶ。</p> <p>4. おもちゃや道具などを分類して整理する。</p> <p>5. 分割した絵カードを組み合わせる。</p> <p>6. 関係の深い一対の物や絵カードを組み合わせる。</p> <p>7. 対応させてものを配る。</p> <p>8. 数量の多少、大小などを比べて、多い少ない、大きい小さいなどに気づき、差が大きい場合に多い方、大きい方をとる。</p> <p>9. 円、正三角形、正方形の見本を見て、同じ形のものを選ぶ。</p> <p>10. 遊びや日常生活の中で、できたら、できなかつたら×など、×の意味がわかり、使う。</p>	<p>1. 形、色、大きさなどで分類する。</p> <p>2. 身近なものを、用途などで分類する。</p> <p>3. 1対1の対応により数の多少がわかり、多い少ない)方を指す。</p> <p>4. 具体的な事物や事柄の順番が分かり、順序数を唱える。</p> <p>5. 身近にある具体的な事物を数える。</p> <p>6. 数字を読んだり書いたりする。</p> <p>7. 必要に応じて具体的な事物を加えたり、減らしたりする。</p> <p>8. 大きい・小さい、長い短い、広い・狭い、重い・軽いなどが分かり、比較する。</p> <p>9. 朝、昼、晩の違いに気づく。</p> <p>10. 学校に行く日(授業日)と行かない日(休業日)があることに気づく。</p> <p>11. 丸、三角、四角などの名称を言ったり、指をさしたりする。</p> <p>12. 上下、前後などが分かり、生活の中で使う。</p> <p>13. 身近な生活の用で使われている×などの表が分かり、記入する。</p>	<p>1. 簡単な数の範囲で数えたり、数字を読んだり、書いたりする。</p> <p>2. 簡単な加法や減法を用いる場合が分かり、初歩的な計算をする。</p> <p>3. まとめて数えたり、等分したりする。</p> <p>4. 身近にあるものを使って長さや重さ、容積を比べる。</p> <p>5. 遠い・近い、深い・浅いなどが分かり、比較する。</p> <p>6. 時計で大体の時刻を読む。</p> <p>7. 今日の日付や曜日が分かり、暦を見て読む。</p> <p>8. 円、三角形、正方形、長方形が分かり、それらを書く。</p> <p>9. 自分を中心として左右が分かり、指をさす。</p> <p>10. 簡単な生活の処理を×などの表で表す。</p>	<p>1. やや広い範囲の数を数えたり、数字を読んだりする。</p> <p>2. 加法や減法の計算をする。</p> <p>3. 簡単な乗法や除法の意味が分かり、初歩的な計算をする。</p> <p>4. 簡単な計算器を使って計算する。</p> <p>5. 長さ、重さ、容積を表わす単位が分かり、ものさしやはかりなどの扱いに慣れる。</p> <p>6. 温度計や体温計の目盛りを読む。</p> <p>7. 時刻を読んだり、簡単な時間の計算をしたりする。</p> <p>8. 日課表や時刻表を読む。</p> <p>9. 暦のおおよその仕組みが分かり、その扱いに慣れる。</p> <p>10. 正方形、長方形、正三角形、直角三角形などのおおよその特徴が分かり、それらをかいたり、作ったりする。</p> <p>11. 三角定規やコンパスなどを使って、簡単な図形をかく。</p> <p>12. 絵グラフや棒グラフを読んだりかいたりする。</p> <p>13. 金銭の値打ちが分かり、買い物をする。</p>	<p>1. 生活の中で必要な数を数えたり、数字を読んだり、書いたりする。</p> <p>2. 数式が分かり、生活の中でいろいろな計算をする。</p> <p>3. 必要に応じて計算器を使って計算する。</p> <p>4. 単位の関係が分かり、生活の中で測定用具を利用し、いろいろなものを測定する。</p> <p>5. 生活の中で、時計や暦を利用し、時間や日数の計算をする。</p> <p>6. 乗物などの時刻表を読む。</p> <p>7. 正方形、長方形、正三角形、直角三角形、円、辺、頂点、直角などが分かり、それらの言葉を正しく使う。</p> <p>8. 定規やコンパスなどを使っていろいろな図形をかく。</p> <p>9. いろいろな図表やグラフを読んだり、書いたりする。</p> <p>10. 金銭に関する実務が分かり、生活の中で使う。</p>

【国語】

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校	養護学校高等部
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師のそばで絵本やテレビを見る。</li> <li>2. 友達と一緒に、紙しばいやテレビを見て楽しむ。</li> <li>3. テレビや絵本などに知っているものが出てくると、それを認めて反応する。</li> <li>4. 立つ、腰かける、集まる、歩くなど簡単な指示を聞いて、行動する。</li> <li>5. 「いけない」と言われることが分かる。</li> <li>6. 身振りや音に対して反応を示す。</li> <li>7. 音や身振りを模倣する。</li> <li>8. 自分の名前を呼ばれたら、ふりむいたり、返事をしたりする。</li> <li>9. 教師などの話しかけに応じ、発語する。</li> <li>10. 簡単なごっこ遊びしながら、自由に話したり聞いたりする。</li> <li>11. 要求があると、身振りや声を出して注意をひく。</li> <li>12. 表情や身振りで依頼や訴えをする。</li> <li>13. 簡単な言葉で、依頼や訴えをする。</li> <li>14. 絵本などに出てくる身近な動物や事物などを興味をもって見る。</li> <li>15. 好きな本を自分でさがし、読んでもらって楽しむ。</li> <li>16. 話の筋のある簡単な絵本を見たり、読んでもらったりすることを喜ぶ。</li> <li>17. くつ箱、ぼうしかけなどの自分の印が分かる。</li> <li>18. 図形や絵などの異同が分かる。</li> <li>19. いろいろな道具を使って、なぐり書きをする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簡単な童話、放送、録音などを楽しんで聞く。</li> <li>2. 絵本、紙しばい、劇、VTR、テレビ、映画などを見て、自分の言葉で話す。</li> <li>3. 絵本や簡単な紙しばいやVTRなどを、見たり聞いたりして、その内容を楽しむ。</li> <li>4. 教師などの簡単な指示や説明を聞いて、できるだけそのとおり行動する。</li> <li>5. 話し合いの時など、相手の話を終わりまで静かに聞く。</li> <li>6. 自分の経験したことや見聞きしたことを、教師などに簡単な言葉で話す。</li> <li>7. 簡単な伝言をする。</li> <li>8. 要望などを言葉で訴える。</li> <li>9. 友達と一緒に、簡単なせりふのある劇をする。</li> <li>10. 幼児語を使わないで話す。</li> <li>11. 自分の名前の文字がわかる。</li> <li>12. 絵本やテレビなどにしばしば出てくるひらがなに好奇心をもち、読もうとする。</li> <li>13. 身近な生活の中でしばしば目にふれる標識、看板、広告などについても好奇心をもつ。</li> <li>14. ひらがなで書かれた語句を読む。</li> <li>15. 点線の上をなぞって書く。</li> <li>16. 簡単な図形をまねて書く。</li> <li>17. 文字を書くことに興味をもつ。</li> <li>18. 鉛筆などを正しく持ち、正しい姿勢で書く。</li> <li>19. ひらがなの簡単な語句を見て書き写す。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師などの説明、友達の話、簡単な放送、録音などを聞いて、内容のあらましが分かる。</li> <li>2. 話を終わりまで注意して聞いたり、分からない時は聞き返したりする。</li> <li>3. 見聞きしたことや、経験したことのあらましを家の人や教師に話す。</li> <li>4. 話し合いや学級会などで、聞き手の方を向いてはっきり話す。</li> <li>5. 教師や家の人などに、要件を落とさずに、簡単な伝言をする。</li> <li>6. 分からないときは、尋ねる。</li> <li>7. 友達と一緒に、簡単な劇などをする。</li> <li>8. 必要ときには、ていねいな言葉で話す。</li> <li>9. なるべく正しい発音で話す。</li> <li>10. 絵本ややさしい読み物を読むことに興味をもつ。</li> <li>11. 校内の危険な箇所を示す標識が分かる。</li> <li>12. 促音、長音等の含まれた語句や短い文を正しく読む。</li> <li>13. カタカナやよく使われる簡単な漢字を読む。</li> <li>14. 進んで文字を書こうとする。</li> <li>15. 簡単な語句や短い文をひらがなで書く。</li> <li>16. 簡単な絵日記を書く。</li> <li>17. 自分の名前などを、漢字で書く。</li> <li>18. 教師と一緒に、簡単な手紙を書く。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物語、劇、映画、テレビなどを見たり、聞いたりして楽しみ、簡単な感想話す。</li> <li>2. 簡単な放送や録音などの内容の要点が分かる。</li> <li>3. 実習などで、指示や説明などを聞き取って行動する。</li> <li>4. 事柄の順序をたどって経験したことを話す。</li> <li>5. 人に尋ねられたときははっきり応答する。</li> <li>6. 学級会、生徒会などで自分の意見をみんなに分かるように話す。</li> <li>7. 要件を落とさずに話をする。</li> <li>8. 必要ときには、ていねいな言葉を使ったり、共通語で話す。</li> <li>9. 電話の応答に慣れる。</li> <li>10. やさしい読み物を読んで楽しむ。</li> <li>11. しばしば目にふれる標識、看板、立て札、掲示などの意味が分かる。</li> <li>12. 日常生活に必要な伝票や領収書、説明書などが分かる。</li> <li>13. ローマ字に関心を持つ。</li> <li>14. 新聞や雑誌などを見たり、読んだりすることに興味を持つ。</li> <li>15. 見聞きしたことや経験したことなどについて、できるだけ順序立てて書く。</li> <li>16. 簡単な手紙文や日記を書く。</li> <li>17. 簡単なメモをとる。</li> <li>18. 句点(。)、読点(、)などに注意して書く。</li> <li>19. 良く使われる簡単な漢字の書き方や使い方が分かる。</li> <li>20. 長音、拗音、促音、発音、助詞「を、は、へ」などを正しく読んだり書いたりする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物語、劇、放送などを見たり聞いたりして楽しみ、感想を話す。</li> <li>2. 放送や録音の内容が分かる。</li> <li>3. 必要な場合は、メモをとったりして、指示や説明を正しく聞きとる。</li> <li>4. 経験したことを相手に分かるように、できるだけ要点を落とさずに話す。</li> <li>5. 場に応じた適切なあいさつや応答をする。</li> <li>6. 学級会、生徒会などで人の意見を聞き取り、自分の意見を話す。</li> <li>7. 要件を落とさずに要領よく話をする。</li> <li>8. 敬語を適切に使う。</li> <li>9. 電話で適切な応答をする。</li> <li>10. 日常生活で、よく使われる外来語が分かる。</li> <li>11. いろいろな読み物を読んで楽しむ。</li> <li>12. 辞典などを利用する。</li> <li>13. 日常生活に必要な標識や看板、広告、立て札、掲示などをできるだけ正しく読み取る。</li> <li>14. 日常生活に必要な伝票や領収書、諸届、申込書などの記入の仕方が分かる。</li> <li>15. 日常生活で使われる器具や医薬品などの簡単な説明書が分かる。</li> <li>16. 日常生活でよくふれる外来語の標識が分かる。</li> <li>17. 新聞や雑誌などを、見たり、読んだりする。</li> <li>18. 経験した事柄を順序立てて、要領よく書く。</li> <li>19. 手紙や電文を読んだり書いたりする。</li> <li>20. 毎日、日記を書く。</li> <li>21. 要領よくメモをとる。</li> <li>22. 句点、かぎ(「」)など正しい使い方に慣れる。</li> <li>23. よく使われる漢字の書き方や使い方が分かる。</li> <li>24. ペンや毛筆などを使って書写する。</li> <li>25. 自分の履歴書などを手本にして書く。</li> </ol>

【職業】

中学校	養護学校高等部
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 働くことに関心を持ち、仕事に参加する。</li> <li>2. 物を作ったり、育てたりすることに興味・関心を持ち、仕事への意欲をもつ。</li> <li>3. 仕事の内容と自分の分担する役割が分かる。</li> <li>4. 仕事について分からないことはよく聞いてする。</li> <li>5. ふさげたり、むだ話、よそ見などをしないで仕事をする。</li> <li>6. 仕事の好き嫌いをしないで、根気よく最後までする。</li> <li>7. 人と協力して仕事をするようにする。</li> <li>8. 人の仕事にむやみに手出し、口出しをしないようにする。</li> <li>9. 仕事の決まりや指示などをよく守る。</li> <li>10. 時と場に応じた服装、動作、言葉づかいなどをする。</li> <li>11. 合図に従って仕事を始め、作業場を離れる時には必ず報告する。</li> <li>12. いろいろな道具、機械などの操作に慣れ、正しく扱う。</li> <li>13. 作業に必要ないろいろな道具や機械などの仕組みを理解し、安全に正しく扱う。</li> <li>14. 道具、機械などの手入れや簡単な修理をする。</li> <li>15. 道具、機械、材料、製品などの後片付けや管理をきちんとする。</li> <li>16. 安全に関する用語や標識の意味を理解する。</li> <li>17. 自分や他人の安全に気を配って作業をする。</li> <li>18. 危険な場所や状況に注意して作業をする。</li> <li>19. 機械の故障や危険な状態に気づいたら適切な処置をする。</li> <li>20. 原材料の性質を知り、むだのないように適切に使う。</li> <li>21. 原材料などや製品、収穫物を大切に扱う。</li> <li>22. 原材料などをむだのないように使う。</li> <li>23. 原材料や製品、収穫物などの整理と保管をする。</li> <li>24. 注意して品物などの運搬ができる。</li> <li>25. 品物を並べたり、束ねたり、積み重ねたりする。</li> <li>26. 簡単な梱包をしたり、ほどいたりする。</li> <li>27. 製品や収穫物の良否が分かる。</li> <li>28. 事務用品や簡単な事務用機器などを扱う。</li> <li>29. 簡単な記帳事務を知る。</li> <li>30. 仕事に関する電話をかけたたり、受けたりする。</li> <li>31. 清掃の用具を使って、きれいに掃除をする。</li> <li>32. 身近な品物がどのように作られているか、職場見学などで知る。</li> <li>33. 家族や先輩の職業に関心を持ち、自分の住んでいる地域にどんな職業の種類があるかを知る。</li> <li>34. 物を作るために、多くの人々が仕事を分担し、協力していることを知る。</li> <li>35. 会社などで働いている人々の様子を見て、卒業後の進路について関心をもつ。</li> <li>39. 生産したものが、社会でどのように利用されているかを理解する</li> <li>36. いろいろな交通機関の利用の仕方について関心を持つ。</li> <li>37. 現場実習の意味を理解して、仕事をする。</li> <li>38. 現場実習先でのいろいろな決まりを守る。</li> <li>39. 仕事に関する自分の分担を理解して行う。</li> <li>40. 現場実習の場面に応じて、人と協力して仕事をする。</li> <li>41. 自分の能力や適性などがある程度分かり、進路について関心を持つ。</li> <li>42. お金や物などで公私の区別をする。</li> <li>43. 休憩時間などの意味を知る。</li> <li>44. 卒業後、学校と連携をとったり、同窓会などに参加したりすることの意味が分かる。</li> <li>45. 公共職業安定所、福祉事務所などの役割と利用方法を知る</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 働くことの喜びを知り、すすんで仕事に参加する。</li> <li>2. 物を作ったり、育てたりすることの喜びを味わい、仕事への自信をもつ。</li> <li>3. 自分に分担された仕事を責任をもって最後までやりとげる。</li> <li>4. 仕事をするとき、分からないことは自分からすすんで聞く。</li> <li>5. 注意を集中し、根気強く正確に作業をする。</li> <li>6. どんな作業にも積極的に取り組み、最後までやりとげる。</li> <li>7. 人と協力して仕事をする。</li> <li>8. 他人の失敗や過失をとがめないようにする。</li> <li>9. 作業の決まりや指示、伝達、注意などをよく守る。</li> <li>10. 時と場に応じて、服装、動作、言葉づかいなどを適切にする。</li> <li>11. 原材料の特徴を加工法との関係について理解する。</li> <li>12. 作業に使う道具、機械などの名称、操作を知り、安全に正しく使う。</li> <li>13. 道具や機械などの簡単な手入れをする。</li> <li>14. 道具や機械、材料などの後片付けや整理整頓をする。</li> <li>15. 作業に必要な簡単な道具や工具を安全に使う。</li> <li>16. 安全に関するいろいろな用語や標識に関心を持つ。</li> <li>17. 自分や他人の安全に気を付けて作業をする。</li> <li>18. 危険な場所や物に注意して作業をする。</li> <li>19. 機械の故障や危険な状態に気づいたら、すぐに知らせる。</li> <li>20. 品物の長さや重さなどはかたり、数えたりする。</li> <li>21. 品物を破損しないように扱う。</li> <li>22. コピー機、ワープロ機、コンピュータなどの事務機器を取り扱う。</li> <li>23. 仕事に関連する伝達、記帳などの簡単な実務を正確にする。</li> <li>24. 仕事に関する電話を正確にかけたり、受けたり、伝えたりする。</li> <li>25. 簡単な図面を見たりかいたりする。</li> <li>26. 道具や機械を利用して、品物の運搬、移動をする。</li> <li>27. いろいろな物を梱包したり、ほどいたりする。</li> <li>28. 品物を数えたり、並べたり、束ねたり、積み重ねたりする。</li> <li>29. 職場などの見学で製品の生産工程を知る。</li> <li>30. いろいろな職業に関心を持ち、知識を深める。</li> <li>31. 生産工程で仕事をそれぞれ分担し、責任を持って働いていることを知る。</li> <li>32. 働くことを楽しさや厳しさを知り、卒業後の生活について自覚を持つ。</li> <li>33. 職場までの交通機関の利用の仕方について知る。</li> <li>34. 現場実習の意味を理解し、すすんで仕事をする。</li> <li>35. 現場実習する場でのいろいろな決まりを守る。</li> <li>36. 仕事に関する自分の分担に責任を持って、最後までやりとげる。</li> <li>37. 現場実習の場面に応じ、進んで人と協力する。</li> <li>38. 現場実習中の健康と安全に注意する。</li> <li>40. 製品の良否が分かり、不良品をださないように注意する。</li> <li>41. 自分の能力や適性などを理解し、進路について決める。</li> <li>42. 公共職業安定所、職業センター、福祉事務所などの役割を知り、手続きや方法が分かる。</li> <li>43. 職業についてからも、たえず職業的能力を高めようと努めることの大切なことが分かる。</li> <li>44. 職場の組織や機構について関心をもつ。</li> <li>45. 労働と報酬との関係が分かる。</li> <li>46. 給料の使い方を知る。</li> <li>47. 労働時間、賃金、休暇などの基本的労働条件について知る。</li> <li>48. 健康保険、労働保険、年金などの制度のあらましを知る。</li> <li>49. 労働災害や職業病について知る。</li> <li>50. 休憩時間休日の適切な過ごし方を知る。</li> <li>51. 職場でのサークル、厚生施設などの利用方法を知る。</li> </ol>

【家庭】

中学校	養護学校高等部
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. いつも清潔な衣服を着る。</li> <li>2. 自分で身なりを整え、簡単な日常着の手入れをする。</li> <li>3. 洗たく用具、器具、洗剤の使い方が分かり、簡単な日常着などを洗たくする。</li> <li>4. 簡単なものにアイロンを掛ける。</li> <li>5. ボタンなどをつける。</li> <li>6. 布、針、糸を使って基礎縫いをする。</li> <li>7. ミシンの使い方を知り、簡単なものを縫う。</li> <li>8. 型紙に合わせて裁断し、小物や袋などを作る。</li> <li>9. 簡単なしゅう、編み物、染色、織物などをする。</li> <li>10. 簡単な食品名や料理の名前が分かる。</li> <li>11. 栄養を考え、いろいろな食品を組み合わせる。</li> <li>12. 加工食品、半加工食品について知り、利用する。</li> <li>13. 食品の変質について知り、保存の仕方がわかる。</li> <li>14. 冷蔵庫の使い方を知る。</li> <li>15. 食品、食器、着衣などの衛生に気をつける。</li> <li>16. 日常よく使用されている食品を使って簡単な献立をたてる。</li> <li>17. 献立に合わせ、必要な材料をとりそろえる。</li> <li>18. 食品の洗い方、切り方、加熱の仕方、味のつけ方が分かり調理する。</li> <li>19. 主な調味料の使い方が分かる。</li> <li>20. 調理用具などを安全に扱う。</li> <li>21. 電気器具、ガス器具、石油器具などの扱いに慣れる。</li> <li>22. 盛り付けや配ぜんをする。</li> <li>23. 食事の準備や後片付けをする。</li> <li>24. 調理室の簡単な整理・整とんをする。</li> <li>25. 写真や見本を見て、食事の注文をする。</li> <li>26. 作法を守って楽しく食事をする。</li> <li>27. 自分の持ち物の整理・整とんをする。</li> <li>28. 住まいの簡単な手入れや室内の飾り付けなどの手伝いをする。</li> <li>29. 部屋の換気、採光、照明の仕方を知り、調節する。</li> <li>30. 照明器具、冷・暖房用具などを安全に取り扱う。</li> <li>31. 清掃用具、掃除機などを使って住居を清潔にする。</li> <li>32. 指示にしたがって、ごみを分別する。</li> <li>33. 家庭内のいろいろな危険物を注意して取り扱う。</li> <li>34. 掃除用の洗剤、殺虫剤などを安全に扱う。</li> <li>35. 戸じまり、防火などの大切さを知り、事故の場合に人に知らせる。</li> <li>36. 地震、台風、洪水などのときには、指示にしたがって行動する。</li> <li>37. 家庭内における家族の立場や役割を理解する。</li> <li>38. 家庭内における仕事の種類や分担が分かり、手伝いをする。</li> <li>39. 家庭のだんらんに参加する。</li> <li>40. 乳幼児や老人に優しく接し、世話の手伝いをする。</li> <li>41. 一日の生活に見通しをもち、予定を立てて生活をする。</li> <li>42. テレビ、音楽、ゲームなどを、家族や友達と一諸に楽しむ。</li> <li>43. 余暇や休日を楽しく過ごす。</li> <li>44. 来客の応対や、親戚や友達の家への訪問の仕方を知る。</li> <li>45. 値段の高い安いを知り、上手な買い物をする。</li> <li>46. むだ使いをしないで預金・貯金をする。</li> <li>47. 簡単な金銭収支を記録する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. すすんで清潔な衣服を着る。</li> <li>2. 流行を取り入れながら、自分の体にあった衣類などを選ぶ。</li> <li>3. 衣類などのしみやよごれをとる。</li> <li>4. 季節、温度、場所にに応じた服装をする。</li> <li>5. 衣類などの材料や汚れに応じた洗い方が分かり、洗たくをする。</li> <li>6. 布地の性質に合わせ、アイロン仕上げをする。</li> <li>7. 衣類などの整理や保管の仕方が分かる。</li> <li>8. 基礎縫いができ、簡単な補修をする。</li> <li>9. ミシンの使い方に慣れ、いろいろなものを縫う。</li> <li>10. 寸法や型紙のとり方が分かり、簡単な衣服などの製作をする。</li> <li>11. 手芸品を作り、日常の生活に生かす。</li> <li>12. 栄養素及びその働きを知り、いろいろな食品を組み合わせる。</li> <li>13. 食品製造年月日、賞味期間などを見て、新鮮なものを選ぶ。</li> <li>14. 冷蔵庫、冷凍庫などを適切に使用し、食品の保存・管理をする。</li> <li>15. 食中毒について知り、食品衛生に注意する。</li> <li>16. 日常食の献立をたてる。</li> <li>17. 献立に合わせ、必要な材料の買い物をする。</li> <li>18. 食品の洗い方、切り方、加熱の仕方、味の付け方を工失し、手順よく調理する。</li> <li>19. 自分の好みにあわせて調味料を適切に使う。</li> <li>20. 調理用具の種類・用途を知り、適切に扱う。</li> <li>21. 電気器具、ガス器具、石油器具などを適切に扱う。</li> <li>22. 盛り付けや配ぜんを工夫し、手ぎわよくする。</li> <li>23. 食事の準備や後片づけを手順よくする。</li> <li>24. 調理室の整理・整とんをし、清潔にする。</li> <li>25. 献立表を見て、食事の注文をする。</li> <li>26. 食堂、レストランでの食事の作法を知る。</li> <li>27. 自分の持ち物の整理・整とんの仕方を工夫する。</li> <li>28. 住まいの簡単な手入れや、室内の飾り付けを工失する。</li> <li>29. 部屋の換気、採光、照明の仕方を知り、健康な住まい方を工失する。</li> <li>30. 照明器具、冷・暖房器具などの適切な使い方、手入れの仕方を知る。</li> <li>31. 家庭内の整理・整とんや清掃などを行い、気持ちのよいすまい方を工夫する。</li> <li>32. 決まりにしたがってごみの分別し、適切に処理する。</li> <li>33. 家庭内のいろいろな危険物を注意して扱い、危険な場合は適切な処理をする。</li> <li>34. 掃除用の洗剤、殺虫剤などの使用法を知り、適切に扱う。</li> <li>35. 戸じまり、防火などに注意し、事故の場合に、適切な連絡をする。</li> <li>36. 防犯ベル、火災報知器、消火器などの正しい取り扱い方を知る。</li> <li>37. 地震、台風、洪水などのときには、適切に行動する。</li> <li>38. 家庭の仕事を分担し、家族の一員としての役割を進んで果たす。</li> <li>39. 家庭のだんらんに参加し、家族におもいやりの心をもつ。</li> <li>40. 乳幼児や老人の簡単な世話や看護をする。</li> <li>41. 簡単な家庭常備薬と家庭表護用品を正しく使う。</li> <li>42. 生活時間を考え、時間の有効な使い方を工夫する。</li> <li>43. スポーツ、音楽、飼育、栽培などの趣味をもち、生活を楽しむ。</li> <li>44. 余暇や休日を、計画を立てて有効に過ごす。</li> <li>45. 礼儀正しく訪問したり、来客の応対をする。</li> <li>46. 結婚の意味が分かる。</li> <li>47. 妊娠、出産について理解する。</li> <li>48. 予算をたてて、計画的に買い物をする。</li> <li>49. 予算生活の必要性を理解し、計画的に貯金・預金をする。</li> <li>50. 現金購入、分割購入の違いが分かり、クレジットカード、キャッシュカードなどの利用の仕方を知る。</li> <li>51. レシート、領収書などの内容を読みとり、家計簿に記録する。</li> <li>52. 家計の収入・支出状況について大体知り、家庭の経済計画に協力する。</li> </ol>

【保 健】

中学校	養護学校高等部
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進んで身体および身辺の清潔に気をつける。</li> <li>2. 気温の状態を着衣を調節する。</li> <li>3. 身体測定や性徴を通して、体の発育に関心を持ち、体の各部の働きを知る。</li> <li>4. 運動やゲームの後で汗をふいたり、うがいをしたりする。</li> <li>5. 体育施設、用具などの使い方、遊び方などを知り、けがの内容に気をつける。</li> <li>6. 体の状態を考えて、適度な運動をする。</li> <li>7. 偏らないように栄養をとり、食べ過ぎないようにする。</li> <li>8. 小さなけがや生理の処理を自分でする。</li> <li>9. 必要に応じて、体温計や水枕などを使う。</li> <li>10. 薬を指示通り服用する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 常に身体や身辺を清潔に保つ。</li> <li>2. 体の発育や健康に関心を持ち、体の各部の働きを知る。</li> <li>3. 体の状態を考えて、適度な運動をする。</li> <li>4. 運動や作業の後では、汗をふいたり、手足を洗ったり、うがいをしたり、着替えたりする。</li> <li>5. 病気の時や疲れたときは、適宜休養をとる。</li> <li>6. 安全に注意して運動をする。</li> <li>7. 簡単な応急手当の仕方を知る。</li> <li>8. 主な病気の種類を知り、進んで予防接種や健康診断を受ける。</li> <li>9. 主な伝染病とその予防法について知る。</li> <li>10. 職業病や公害病について知り、健康の保持に努める。</li> </ol>

次章では、すでに検討した就労場における課題とこれらの課題の関係について検討し、学校生活から職業生活への円滑な移行を実現する上で重要な課題とは何かについて考察する。というのは、入職に必要な準備が十分整っていない場合、学校から職業の世界への移行を実現できるかどうかについては、送り出す学校と受け入れる事業所との間の連携が重要であると考えられるからである。送り出す側の姿勢としては、「あるがままの生徒を受け入れてもらう」から「一定程度の行動様式を身につけさせなければならない」まで、意見が分かれる。また、受け入れる側の姿勢としても「受け入れた生徒を教育し、一人前の戦力に育てる」から、「会社が持っている採用の基準にしたがって選考する」まで、これも意見が分かれる。図 1-1-1 は、学校から職業生活への移行に関する送り出し側と受け入れ側の関係を示している。それぞれが、2つの意見のどちらにより偏っているかによって、その組み合わせは多様となる。こうした送り出す側と受け入れる側の姿勢にくいちがいがあると、学校から職業の世界への移行は円滑に行われない可能性がある。したがって、現実にはこうした組み合わせを個別に検討していくことも必要となろう。

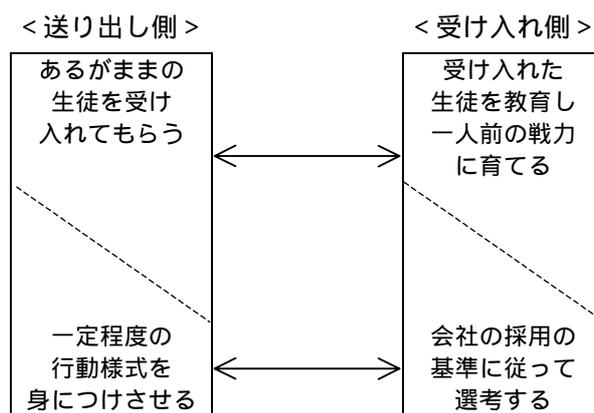


図 1-1-1 送り出し側（学校）と受け入れ側（事業所）の組み合わせ

一方、雇用促進に関する援助のあり方を考える視点として、「とりあえず就職させることが重要であり、職業指導の焦点は、そのためのレディネス形成に尽きる」という見方が、長い間大勢を占めてきたのも事実である。これは、障害者の労働市場への参入障壁があまりにも大きかったことと関連が深いと

考えられる。しかし、法の整備も含め障害者雇用が、徐々に進むにつれて、離職者の顕在化など、入職のための援助ばかりではなく、その後の職場適応に対する援助の重要性も増してきている。つまり、障害者雇用に関しても、「職業行動を一時的・短期的な職業選択や職業適応ではなく、生涯を通して発達するものとして理解し、支援する」ことが重要になっている。つまり、仕事への定着のみならず、仕事を通して実現される発達を支援することが必要になっている。

第3章では、この教育の場から職業の場への円滑な移行並びにその後の継続について検討するために用いる具体的な調査項目の策定方法に関して述べる。

## 第3章 教育の場から職業の場への円滑な移行のための課題の検討

### - 調査項目の策定をめぐって -

第1章、第2章では就労の実現とその継続のための課題及び教育の場における課題のそれぞれについて検討した。これを受けて第3章では、以下の手順に従って具体的な調査項目を策定する。

なお、調査項目の策定にあたっては、第1章で検討された分類（『個人的課題』『対人的課題』『行動特性に関する課題』）を基礎とした。

#### 1. 個人的課題

『個人的課題』については、28項目が挙げられたが、これらの項目をさらに「作業との関連性が低く、日常生活との関連性が高い課題」「数や言葉に関する知識や理解などのように、どのように積み上げていくかという過程が学校教育のカリキュラムの中で明確な課題」「集中力・意欲・責任感などのように、どのように課題を積み上げていくかという過程が明確でない課題」「職業生活を支える知識に関する課題（原則として知識の有無を問う課題であって、適切に実行あるいは利用できるかどうかは問わない課題）」「作業能率などのように、数字で比較・表現することが可能な課題」の5つに分類した。

各課題に分類した項目は、以下の通りである。

作業との関連性が低く、日常生活と関連性が高い課題

「健康管理」「身辺処理」「余暇活動」

数や文字に関する知識や理解などのように、どのように積み上げていくかという過程が学校教育のカリキュラムの中で明確な課題

「数量に関する知識と理解」「文字に関する知識と理解」「時間に関する知識と理解」

「金銭に関する知識と理解」「安全に関する知識と理解」「移動に関する知識と理解」

集中力・意欲・責任感などのように、どのように積み上げていくかという過程が明確でない課題

「作業に対する意欲」「集中力・持続力」「責任感」「自発性」「作業態度」「理解と習熟」

「判断力」「巧緻性」「作業能力」「出勤・遅刻・早退」「規則の遵守」

「仕事の準備と後かたづけ」「道具・設備などの使用」

職業生活を支える知識に関する課題

（原則として知識の有無を問う課題で、適切に実行あるいは利用できるかどうかは問わない）

「働くことへの理解」「自分の能力や知識についての理解」「生活設計」

作業能率などのように、数字で比較・表現することが可能な課題

「作業能率（出来高）」「作業の正確さ（不良品の発生率）」「体力（連続作業時間）」

「理解と習熟（指示の理解と注意の持続）」

## 2. 対人的課題

『対人的課題』については、意思の表示に関する課題と協調性に関する課題に分類した。分類の基準は、基本的には、「伝言」「報告」「理解」「質問」に関する項目を意思の表示（他者の意思を理解することを含む）に関する課題とし、それ以外を協調性に関する課題とした。しかし、これらの分類は、『個人的課題』の場合と比較して必ずしも明確なものではなく、便宜的なものと考えている。なぜなら、意思の表示が適切でない場合は、協調性に関して問題があると評価される可能性が高い、など両者の間には関連があると考えられるからである。

### 意思の表示に関する課題

「伝言の力」「仕事の報告」「電話の利用」「礼儀（言葉遣い・態度）」  
「コミュニケーション（その他）」

### 協調性に関する課題

「挨拶」「協調性」

## 3. 行動特性に関する課題

『行動特性に関する課題』については、項目が少ないため、さらに細かく分類することはしない。

## 4. 調査項目の策定

1～3において一般就労の実現と継続に関する視点を重視した課題の整理をおこなった。次に、この分類を基礎として、学校教育における課題のうち、『個人的課題』『対人的課題』の各領域に含まれるものを学習指導要領の中から選択し、各領域の下位課題とした（各領域とその領域に含まれる課題については表 1-3-1 に示す）。なお、下位課題は、原則として学習指導要領の文言を参考としたが、調査対象となる「事業所」「教員」「保護者」のいずれもが回答可能なように、一部、表現を変更した。

また、学習指導要領の中では、明確な形で提示されていないが、一般就労の実現と継続に関する課題として第1章で検討された課題については、基本的に調査項目に含めた。その結果、作業との関連性が高いと考えられる領域では、学校教育の課題としては明示されていない課題が複数含まれることとなった。また、課題を表現する文章をより適切なものとするために、「社会能力調査票（甲）」他、第1節～第5節で検討された調査以外で利用された項目も参考とした（資料参照）。

各課題と学校指導要領との関係は表 1-3-1 の通りである。なお、各課題は、学年が上がるにつれて、より難易度を増した形で繰り返し課題となる場合が多いが、その場合は、より低学年での課題を選択した。したがって、表 1-3-1 で提示された学年より上の学年では、当該の課題が達成されていない場合は、その課題の達成が目標となるが、達成された場合であっても、さらに上位の課題が要求される場合がある。

また、難易度の変化する一連の課題については、就労の時点でどのレベルでの達成が要求されているか、という点から課題の選択と達成の目標となる学年を示した（例えば、「トイレ（排泄）」については、小学校低学年から課題として提示されている。しかし、一般就労の時点で要求されているのは、「教師と一緒に用便に行く」「パンツやズボンなどを脱がせてもらって用をたす」（小学校低学年）というレベルの課題達成ではなく、「便器の周りを汚さないで用をたす」であり、「自分の家や学校以外の便所も一人で使う」（小学校高学年）であると考えられる。したがって、表 1-3-1 中では課題達成の目標となる学年は「小学校高学年」とした）。

(1) 作業との関連性が低く、日常生活と関連性が高い課題

「健康管理」「身辺処理」「余暇活動」

表 1-3-1 日常生活について	学習指導要領に示された	
	(学年)	(教科)
1. トイレが一人で利用できる	小学高学年	生活（基本的）
2. 食事のマナーが守れる	中学部	家庭
3. 他人に不快感を与えない程度に身なりを整えられる	中学部	家庭
4. 身辺を清潔にできる	中学部	家庭 / 保健
5. 整理・整頓ができる	中学部	家庭
6. 病気やけがの予防ができる（汗をかいたら着替えをする，うがいをするなど）	中学部	家庭 / 保健
7. 病気やけがに対処できる（体温計を使う，服薬できるなど）	中学部	家庭 / 保健
8. 一人で食事の支度ができる	中学部	家庭
9. 一人で掃除や洗濯ができる	中学部	家庭
10. 余暇がうまく過ごせる	中学部	家庭 / 職業

生活（基本的）＝生活（基本的生活習慣）

(2) 数や文字に関する知識や理解などのように、どのように積み上げていくかという過程が学校教育のカリキュラムの中で明確な課題

「数量に関する知識と理解」「文字に関する知識と理解」「時間に関する知識と理解」

「金銭に関する知識と理解」「安全に関する知識と理解」「移動に関する知識と理解」

表 1-3-1 数の理解について	学習指導要領に示された	
	(学年)	(教科)
1. 簡単な数を数える	小学高学年	算数
2. 簡単な数字を読んだり，書いたりする	小学高学年	算数
3. 簡単な加法を用いる場合が分かり，初歩的な計算をする	小学高学年	算数
4. 簡単な減法を用いる場合が分かり，初歩的な計算をする	小学高学年	算数
5. 簡単な乗法を用いる場合が分かり，初歩的な計算をする	中学部	算数
6. 簡単な除法を用いる場合が分かり，初歩的な計算をする	中学部	算数
7. 品物の長さや重さなどをはかったり，数えたりする（物差しや秤が使える）	中学部	算数
8. 簡単な計算器（電卓等）を使って計算する	中学部	算数

表 1-3-1 時間の理解と管理について	学習指導要領に示された	
	(学年)	(教科)
1. 仕事に行く日と行かない日があることが分かる	小学中学年	算数
2. 時計で大体の時刻を読む	小学高学年	算数
3. 今日の日付や曜日が分かる	小学高学年	算数
4. 日課表やスケジュール表を読む	中学部	算数
5. 生活の中で、時計や暦を利用し、時間や日数の計算をする	高等部	算数
6. 乗物などの時刻表を読む	高等部	算数
7. 日課にそって生活する	小学高学年	生活(決まり)
8. 一日の生活に見通しをもち、予定を立てて生活をする	中学部	家庭
9. 経済的にも時間的にも、計画を立てて生活することの必要性が分かる	高等部	社会
10. 規則正しい生活をする		

表 1-3-1 金銭管理について	学習指導要領に示された	
	(学年)	(教科)
1. 少額で、決った額の買い物を一人でする	小学中学年	生活(金銭)
2. 自動販売機を利用する	中学部	社会
3. 日用品のおよその値段が分かる	小学高学年	生活(金銭)
4. 商店を利用して、日用品を買う	中学部	社会
5. 簡単な金銭収支を記録する	中学部	家庭
6. 勤労に対して、報酬が得られることが分かる	中学部	社会
7. 家計の収入・支出状況について知り、必要な費目が分かる	高等部	家庭
8. 予算をたてて、計画的に買い物をする	高等部	家庭
9. 計画的に貯金・預金をする	高等部	家庭
10. 収入にあわせて金銭を管理する		

表 1-3-1 言葉の学習について	学習指導要領に示された	
	(学年)	(教科)
1. ひらがなや簡単な漢字を読む	小学中学年	国語
2. ひらがなや簡単な漢字を書く	小学中学年	国語
3. 語句や短い文を正しく読む	小学高学年	国語
4. 語句や短い文を正しく書く	小学高学年	国語
5. しばしば目にふれる標識、看板、立て札、掲示などの意味が分かる	中学部	国語
6. 見聞きしたことや経験したことなどについて、できるだけ順序立てて書く	中学部	国語
7. 簡単なメモをとる	中学部	国語

表 1-3-1 安全について	
1. 危険な物や危険なことが分かる	安全については、複数の教科にわたって課題となっていること、また、繰り返しが多いため、特定の学年及び教科名を挙げるができなかった
2. 危険を示す言葉や標識が分かる	
3. 危険を示す言葉や標識が分かり、指示にしたがう	
4. 危険な状況を判断できる	
5. 危険な状況に対処できる	

表 1-3-1 移動について	学習指導要領に示された	
	(学年)	(教科)
1. 職場や家の近くの交番や停留所・駅のあるところ分かる	小学中学年	生活(社会)
2. 最寄りの駅やバス停まで一人でいく	小学中学年	生活(社会)
3. 電車やバスの切符を買う	小学高学年	生活(施設)
4. 職場まで、交通機関を利用して一人でいく	小学高学年	生活(施設)
5. 知っている場所なら、交通機関を利用して一人でいく	「社会能力調査票」より	
6. 知らない場所でも、交通機関を利用して一人でいく		
7. 勤めている会社の中で一人で自由に目的の場所までいく		

以上のように、表 1-3-1 ～ は、学校教育のカリキュラムを中心に構成された、積み上げの過程が明確な課題である。

これらの課題では、下位項目は、例えば「数量に関する知識と理解」という1つの課題に対する達成のレベルを表していると考えられる。これは、以下の表 1-3-2 ～ ，表 1-3-3 ～ における項目とは異なる。表 1-3-2 ～ ，表 1-3-3 ～ における項目は、基本的にそれぞれが独立した課題であり、項目間に達成に関する上下関係は存在しない。したがって、表 1-3-2 ～ ，表 1-3-3 ～ における項目は、それぞれを1課題として扱う。

(3) 集中力・意欲・責任感などのように、どのように積み上げていくかという過程が明確でない課題

「作業に対する意欲」「集中力・持続力」「責任感」「自発性」「作業態度」

「判断力」「巧緻性」「作業能力」「出勤・遅刻・早退」「規則の遵守」

「仕事の準備と後かたづけ」「道具・設備などの使用」

表 1-3-2 職業生活について	学習指導要領に示された (学年) (教科)	
	1. 目印をつければ、自分のものが分かる 2. 自分のものと他人のものが区別できる 3. 他人の物や会社の物を、無断で持って行かない 4. 会社の備品や道具などを使ったら、必ず返す 5. 順番や交代の意味が分かる 6. 仕事にむやみに歩きまわったり、騒いだりしない 7. 整理・整頓ができる 8. 共同の道具などを大切に 9. 約束を守る 10. 会社の決まりを守り、礼儀正しく行動する 11. 積極的に作業に取り組む 12. 自分に分担された仕事は、責任を持って最後までやり遂げる	小学低学年 小学中学年 小学低学年 小学中学年 小学中学年 小学低学年 小学高学年 小学高学年 小学高学年 高等部 高等部 高等部
13. 自分の考えと違って指示を受け入れる 14. 注意されたことは素直に聞く 15. うそをついたり、言い訳をしたりしない 16. 自分で工夫して仕事する 17. まじめにコツコツと仕事をする 18. 出勤状態がよい(むやみに休まない) 19. 怠けたり手抜きをしたりしない 20. できないときにごまかさない 21. 辛抱強く、飽きないで仕事をする 22. 疲れを訴えることなく、ねばり強く仕事をする 23. 気に入らない仕事でもよく耐える 24. 反復作業に耐える 25. ふざけたり、よそ見をしないで仕事をする 26. 仕事に無駄話をしない	基本的には、8 報告書から得られた 9 つの表から選択。 一部の表現等については、「社会能力調査票」「レディネス・チェックリスト」の下位項目、「人事考課」等の資料から作成 (参考資料参照)	

表 1-3-2 作業について	学習指導要領に示された (学年) (教科)	
	1. 道具や機械や材料の準備、後片づけができる 2. 道具や機械や材料を正しく使う 3. 道具や機械や材料の管理や手入れができる 4. 道具や機械や材料を大切に扱う 5. 道具や機械や材料を注意して運搬する 6. 課題が変化した場合、新しい作業内容や手順を短時間で覚える	中学部 中学部 中学部 中学部 中学部

(4) 職業生活を支える知識に関する課題(原則として適切に実行あるいは利用できるかどうかは問わず、知識の有無を問うものとする)

「働くことへの理解」「自分の能力や知識についての理解」「生活設計」

表 1-3-2 自分の特徴について	
1. 自分がどういう仕事に向いているかが分かる 2. 自分のやってみよう仕事がある 3. 自分の得意・不得意が分かる	中学部・高等部 「自分の能力や適性などがある程度分かり、進路について関心を持つ」を分割

「職業生活を支える知識」に含まれる課題は、上記の3課題のみであった。調査項目の策定に関しては、基本的に一般就労の実現と継続のための課題の分類を基礎とするが、これらの課題のキーワードである「知識」に関する課題は少なかった。このことは、就労の実現と継続に関して「知識」が重要視されていないことを示すものと考えられる。しかし、学校教育の目標が「知識」と「技能」の獲得であることを含め、学習指導要領では「職業生活を支える知識」に関する課題が多く挙げられている。このため、事業所・教員・保護者の3者間の意見の比較という視点から、ここでは、学校教育の課題を中心に「職業に関する知識」と「一般的な知識」の2つに関して、学習指導要領の課題を中心に課題を選択することとした(表1-3-2 ~ )。

表1-3-2 職業に関する知識・理解について	学習指導要領に示された	
	(学年)	(教科)
1. いろいろな職業の名前が言える	小学高学年	生活(社会)
2. 多くの人々が仕事を分担し、協力していることが分かる	中学部	職業
3. 生産工程で仕事をそれぞれ分担し、責任を持って働いていることが分かる	高等部	職業
4. 仕事の内容と自分の分担する役割が分かる	中学部	職業
5. 職場の組織や機構が分かる	高等部	職業
6. 労働時間、賃金、休暇などの基本的労働条件について分かる	高等部	職業
7. 健康保険、労働保険、年金などの制度のあらましが分かる	高等部	職業
8. 履歴書など、手本を見て書き写す	高等部	国語
9. 公共職業安定所、福祉事務所などの役割と利用方法が分かる	中学部	職業

表1-3-2 一般的な知識について	学習指導要領に示された	
	(学年)	(教科)
1. 火事や事故の時、119番や110番に電話連絡すればよいことが分かる	小学高学年	生活(施設)
2. 警察署、消防署、郵便局、病院、市役所(町・村役場)などのおよその動きが分かる	中学部	社会
3. 日常生活で使う水、電気、ガスなどの働きを知り大切に使う	中学部	社会
4. 日常生活に必要な伝票、領収書、諸届、申込書などの意味が分かる	中学部	国語
5. 日常生活に必要な伝票、領収書、諸届、申込書などの記入の仕方が分かる	高等部	国語
6. 日常生活でよくふれる外来語が分かる	高等部	国語
7. 選挙の意味が分かり、市町村や国などの選挙に関心をもつ	中学部	社会

(5) 作業能率などのように、数字で比較・表現することが可能な課題

「作業能率(出来高)」「作業の正確さ(不良品の発生率)」

「体力(連続作業時間)」「理解と習熟(指示の理解と注意の持続)」

これらの課題では、例えば「作業能率(出来高)」については「健常者を100%とした場合、どのくらいの出来高を期待できるのか」といった形の検討が可能である。また、これらの課題では、他の課題とは異なり、結果を客観的に数値で示すことが可能である。そこで、これらの課題については、以下のように一部質問の形式を変えることで、それぞれについての意見を数値で比較検討する。

- ア 作業能率 - 出来高の見積り
- イ 作業の正確さ - 不良品の発生率
- ウ 体力 - 一日の総作業時間 / 連続して作業可能な時間 / 残業時間
- エ 理解と習熟 - 指示の理解と注意の持続

(6) 意思の表示に関する課題

「伝言の力」「礼儀（言葉遣いや態度）」「仕事の報告」「電話の利用」

「コミュニケーション（その他）」

表 1-3-3 意思の表示について	学習指導要領に示された	
	(学年)	(教科)
1. 聞かれれば、見たこと、聞いたことを上司に話す	小学中学年	生活（交際）
2. 自分の経験したことや見聞きしたことを、簡単な言葉で上司に話す	小学中学年	国語
3. 事柄の順序をたどって、経験したことを話す	中学部	国語
4. 仕事が終わったら報告をする	小学高学年	生活（仕事）
5. 簡単な伝言をする	小学中学年	国語
6. 電話や来客があったときは、取り次ぎをする	小学高学年	生活（交際）
7. 上司や家の人などに、要件を落とさずに、簡単な伝言をする	小学高学年	国語
8. 自分の名前を呼ばれたら、返事をする	小学低学年	国語
9. 電話の対応の仕方を知り、利用する	中学部	国語
10. 話が分からないときは聞き返す	小学高学年	国語
11. 作業が分からないときは、尋ねる	中学部	職業
12. 簡単な言葉で、依頼や訴えをする	小学低学年	国語
13. 要望や不満などを言葉で表現する	小学中学年	国語
14. 指示や説明を正しく聞き取る	小学中学年	国語
15. 上司などの説明、友達の話、簡単な放送、録音などを聞いて、内容のあらましが分かる	小学高学年	国語
16. 身近な問題を仲間と話し合い、自分の意見も述べる	中学部	社会
17. 自分の意見をみんなに分かるように話す	中学部	国語
18. 話し合いなどで、聞き手の方を向いて、はっきり話す	小学高学年	国語
19. 必要なときには、ていねいな言葉で話す	小学高学年	国語
20. 時と場所に応じて、適切な言葉や態度で対応する	中学部	社会
21. 立場をわきまえて適切な言葉や態度で対応する	高等部	社会
22. 話す相手と視線をあわせる	非言語的コミュニケーションに関する課題を参考に作成	
23. 表情や音声、身ぶりで自分の気持ちを表現できる		
24. 表情をあらわに出してはいけない場面が分かる		
25. 話し手の表情、音声、身ぶりを見て相手の気持ちが分かる		

(7) 協調性に関する課題

「挨拶」「協調性」

表 1-3-3 協調性について	学習指導要領に示された	
	(学年)	(教科)
1. 身近な人に、「おはよう」、「さようなら」などのあいさつをする	小学中学年	生活(交際)
2. 「ありがとう」、「ごめんなさい」を言える	小学中学年	生活(交際)
3. 場に応じた適切なあいさつや応答をする	高等部	国語
4. 必要なときに他人に協力する	中学部	社会
5. 必要なときに他人の協力を受け入れる	中学部	社会
6. 人に迷惑をかけたときには、謝る	小学高学年	生活(交際)
7. 他人の失敗や過失をとがめない	高等部	職業
8. 場の雰囲気が分かる	社会生活能力調査票(甲)及びレディネス・チェックリストの下位項目等を参考に作成(参考資料参照)	
9. 自分勝手な行動をしない		
10. 助けてもらったときには、感謝の気持ちを表わす		

(8) 援助の程度について

(1)～(7)までの各課題の達成に関しては、他者からの援助なしに達成できることが望ましい。しかしながら実際には関係者の援助が必要な場合も多い。ここでは、特に「作業の遂行」と「援助」の関係について検討することを目的に、以下の3項目を加えた(表1-3-4)。

表 1-3-4 援助の程度について

1. 援助があれば作業を遂行できる
2. 若干の援助があれば作業を遂行できる
3. 援助がなくても作業を遂行できる

(9) 行動特性に関する課題

行動特性については、社会生活能力調査票(甲)を中心に課題の選択を行った(表1-3-5)。

表 1-3-5 行動特性に関する課題

1. 情緒が不安定である
2. 奇声を発する
3. 乱暴をする
4. 反抗的な態度をとる
5. 自分の中に引きこもる
6. やたらに不満をいう
7. 気持の切り替えができない

以上の課題に加えて、「実習や就労に関する全体的な意見」についても調査項目に加えた。また、事業所に対しては「知的障害者の雇用に行っている配慮」、保護者に対しては「子の就労による自

立を考えた時期や理由」等を調査項目に加えた。これらの項目に対する意見の類似または相違を検討することで、事業所・教員・保護者などの立場の違いを越えて、また企業属性や学校種別を越えて、共通した意見を有する場合の検討が可能になると考えたからである。

#### 【引用文献】

雇用促進事業団雇用職業総合研究所 1989

職業評価と「障害者用就職レディネス・チェックリスト」の作成 職研調査研究報告書 87

文部省 1992 特殊教育諸学校学習指導要領解説 - 養護学校(精神薄弱者教育)編 -

三沢義一・小畑文也 1987 精神障害者の職場適応について - 個人的・環境的要因との関連 -  
特殊教育学研究 第25巻第2号 pp.1~9. 日本特殊教育学会

職業研究所 1981 『精神薄弱者の職場適応をめくって』

- 精神薄弱者の職域拡大に関する研究報告書 - 職研調査研究報告書 16.

身体障害者雇用促進協会 1991 『精神薄弱児の社会的自立に関する研究』

- 就労を促進するための学校教育の役割 - 日本船舶振興会補助金事業研究成果報告書

身体障害者雇用促進協会 1984 精神薄弱者の職場適応とその改善・向上

身体障害者雇用促進協会研究調査報告書 - 3 通刊第86号

身体障害者雇用促進協会 1985 精神薄弱者の職場適応とその改善・向上( )

身体障害者雇用促進協会研究調査報告書 - 2 通刊第92号

身体障害者雇用促進協会 1987 精神薄弱者の職業準備に関する調査研究

身体障害者雇用促進協会研究調査報告書 昭和60年度- 9 通刊第105号

身体障害者雇用促進協会 1987 精神薄弱者の職業準備に関する調査研究

身体障害者雇用促進協会研究調査報告書 昭和61年度- 9 通刊第114号

身体障害者雇用促進協会 1987 精神薄弱者の職業準備に関する調査研究

身体障害者雇用促進協会研究調査報告書 昭和62年度- 9 通刊第124号

#### 【項目策定のための参考文献】

秋庭信夫・館暁夫 1986 精神薄弱者の職業評価に関する研究(1) - 企業における評価 -

雇用職業研究(雇用職業総合研究所紀要) 26. pp.1~14.

日本障害者雇用促進協会 1996 精神薄弱者の職場受け入れと職場における能力開発・活用に関する

研究調査 日本障害者雇用促進協会研究調査報告書 - 7 通刊第142号

Robert L. Schalock(訳者:雇用職業総合研究所) 1988 精神遅滞者のための職業自立訓練マニュアル

日本文化科学社

上岡一世 1990 社会的な生活自立のための指導プログラム 明治図書出版

【参考文献】

秋庭信夫・館暁夫 1986 精神薄弱者の職業評価に関する研究(1) - 企業における評価 -  
雇用職業研究(雇用職業総合研究所紀要) 26. pp.1~14.

平成5年度身体障害者等雇用実態調査結果報告書(平成5年11月調査/平成6年3月発行)  
- 労働省職業安定局 高齢・障害者対策部障害者雇用対策課 -

身体障害者雇用促進協会 1982 精神薄弱者の就労条件と問題  
身体障害者雇用促進協会研究調査報告書 - 6 通刊第71号